

交通Bulletin

2004年 春季号, No.5

発行日：平成16年4月1日
 発行：日本大学理工学部
 社会交通工学科教室
 ☎ 047-469-5239 (教室事務)
 発行責任者：星埜正明 (教室主任)
 編集担当：伊東 孝・長井裕美子・野水雅之
 制作：株式会社 テイクアイ

DEPARTMENT OF TRANSPORTATION ENGINEERING AND SOCIO-TECHNOLOGY · COLLEGE OF SCIENCE AND TECHNOLOGY · NIHON UNIVERSITY

■ CONTENTS ■

技術環境の変質と「けんか」必要論(高田邦道)	1	助成研究・委託研究	25
平成16年度 研究室紹介	3	平成15年度 各賞受賞者	26
平成15年度 博士論文・修士論文・卒業研究	11	平成15年度 学生の活動	26
平成15年度 教員の研究・活動		平成15年度 就職状況	27
研究業績	14	社会交通工学科の公務員志望者交流会について.....	28
社会的活動	21	[TOPICS]	
学外学術活動	23	技術士、技術士補そして JABEE について	2
海外出張	25	CST MUSEUM の登場	10

技術環境の変質と「けんか」必要論

—技術立国としての技術持続のために—

社会交通工学科教授 高田邦道

技術立国「ジャパン」は国内外で誰もが認めるところであるが、交通システムを構築する中では不安がいっぱいである。わが国では専門技術者の制度が十分でない。企業の中でも技術者が技術者としてトップまで登りつめることが難しい。もうひとつは、技術の話が技術者抜きで決まることが多い。「技術者組織」である4公団民営化の論議の中にも技術者の議論がみえていない。交通安全対策もしかりで、交通安全週間のイベントをいくら実施しても交通事故対策の根本的な解決にはならない。

一方で、技術者も技術の誇りと鍛錬が足りているであろうか。広い視野をもって社会システムに適應する腕をみがいっているであろうか。技術会社であるはずの建設会社が、いくら多角経営とはいえ、不動産である「土地」を動産扱いして失脚した姿は、技術立社という基本を忘れたことではあるまいか。

このような技術社会がこんとんとした中で、『環境』はもちろん『安全』の問題が大きいのしかかっている。相次ぐ高速道路での追突事故は、プロフェッショナルとしての運転手の怠慢そのものである。かつては運転技術のプロとしての自覚があった。その職場環境、社会環境の改善の議論より、自動制御(自動運転)の技術開発の遅さを指摘する一部マスコミと、その技術競争にまい進する技術集団に恐怖を感じるのは著者だけであろうか。

.....

以上は「現代用語の基礎知識 2004」(自由国民社刊)の運輸交通分野の基礎知識『解説フォーカス』の再録であるが、このような技術環境に何故変質してきたかを考えてみよう。技術の各専門分野は、深く掘り下げられた。それはそれで大変結構なことではあるが、一方で他の分野を相入れず「タコつぼ」型専門分野になってしまっていないか。交

通工学専攻の兼任教授であった故八十島義之助東大教授は、「技術者はTechnologyのTの如く、横にどこまでも広く(他分野の中にどこまでも進出する、あるいは他分野からの意見を聞く)、縦にどこまでも深く技術を追求しなければならない」と常々話されていたが、昨今の技術者はT型から「タコつぼ」といわれる私だけの世界I型に変わったのではなからうか。そのため、技術力があっても非論理的な行動に走る非技術者の軍門に下ることになる。その原因は、いろいろ考えられるが、最大の原因は「けんか(互いに、自分を正しいとして譲らず、激しく非難し合ったり殴り合ったりすること)」ができなくなったことではあるまいか。

けんかを「殴り合ったりすること」だと解釈して、「けんかはいけませんよ、なかよくしなければいけませんよ」と教育していないか。また、教育されていないか。殴り合っても自分の正しさを主張する必要はないか。「弱者いじめは駄目」、「素手でなければならない」、「酔ったけんかは駄目」等々けんかのルールは元来自然に育まれるはずだが、このような社会環境がなくなった今、突然切れて「死に至らしめる」ような事件がほっ発する。そして、けんかを仲裁する人もいない。仲裁する技量がリーダーになる資質で、その訓練ができていないためである。最近の世情をみるにつけても、個々の殻をつくる感じが強く他とのコミュニケーションに欠けているうらみがあるが、けんか否定論が根底にあるまいか。技術者にも、けんかのし方を教育して、自分の正しいことを主張させる必要がある。技術者が「けんか」できないのは、幅広い視野、バックグラウンドとなる技術を持っていないためと考える。また、技術者は客観的にみて技術の不十分さを認識し、それを制度や教育でどうカバーさせたらよいかを考えなければならない。いいかえると、100%完全でない

道具を100%安全に使わせることを考えなければならない。

昨今、交通に関する技術の課題として「踏切りの交通事故」、「回転扉」がある。前者は、超高齢者が踏切りを渡り切れなくて鉄道に轢かれた事故のことである。国土交通省が踏切横断のための警報システムの設計基準がないと回答した結果、マスコミが大騒ぎした。このことでテレビ局が取材にやってきたので、調べてみると踏切横断の設計速度は35m/分を用いていた。信号交差点の横断時の設計速度は60m/分で、これよりはるかに遅速横断者に配慮していると回答したところ、テレビ局のシナリオと異なり番組編成ができないとがっかりしていた。本来、客観的に視野広く取材しなければならないマスコミも同じタコつぼに入り込んでいる。そこで、家族やお手伝いさんがいない場合、安全に配慮した設計値より時間のかかる高齢者も日常生活のために買い物に出かけ、踏切りを横断しなければならない。これほど高齢化した世の中になってきたので、ショッピングの立地配慮や平面交差の解消とそれに伴うバリアフリー支援手段の整備など地区をトータルなシステムで改善しなければ個々の問題を解決できないというまとめ方で一件落ち着いた。マスコミが筋書をつくと、それに乗りたい人と黙ってしまう人に別れてしまう。技術者は正しくその意味するところを堂々と伝えるべきである。

自動回転扉の問題も歩行者の交通問題である。100%の技術的な安全担保がないために大手のビル管理者は閉鎖の方向に動いている。本当にこれでよいか。これを正解とすると、年間1万人近い死亡事故を発生している車はどうなるのか。車も皆手放さなければならないのか。欧米では、自動回転扉が付いているような場所に幼な子は連れてこない（ベビーシッター制度があり、これはこれで問題はあがる）。よしんば連れてきてても手を引き勝手に歩かせるようなことはしない。日本では、技術は100%という神話があり、^{かし}瑕疵責任はお上(行政)〈実際このような裁判例もある〉で、監督下の企業責

任となることが多い。わが国は、一般に個人責任が問われない甘い社会である。この問題解決に対し、技術者が実直で全ての罪を技術の中で消化しようとしていないか。このことに対する不安と恐れを抱いている。また、技術者はセンサーを信じ切ってシステムを構築し、100%安全だと思わせている節がある。理想的には、100%安全な技術があればこれにこしたことはない。しかし、現実には予期しない条件が重なって事故が起こる。だから事故なのである。そのため、100%完全でない道具を人間がうまく使うことを考えなければならない。そこで、はじめて人間らしさが生まれるわけで、機械に人間は使われてはならないことを今一度考え直す時期に来ている。

以上のような例は枚挙にいとまがないが、紙数の関係で2例に留める。「社会交通工学科」では、このような技術を取り巻く社会のシステム、文化、習慣、ものの考え方、を含めて交通技術を創り、利用していくことが使命である。人は愚かであるがゆえに、道具(技術)をうまく使う工夫をしなければならない。道具もうまく使われて、はじめてその価値がでてくる。一方で、部分的なヒステリックピューリタンの発想で技術を殺してはいけないのではなからうか。そのためには、技術者は限定された技術の範囲の中で閉じこもって解決するのではなくて、わずかな技術的不安、技術だけで解決する場合の投資額(過剰投資)、あるいは事故原因などの情報を公開する必要がある。そして、それに基づいて、個々人の技術利用に当たっての行動規範を示し、その下で広く国民がその技術利用の判定を決定すべきであろう。そのために技術者は、技術的側面から戦わなければ技術の将来はあり得ないのである。

本学科は「社会交通工学科」と改名したことであり、社会に役立つ交通技術のみがき、交通システムの社会システムへの同化を究めなければならないと思い、この巻頭言^{した}を認めた。

TOPICS

技術士、技術士補そして JABEE について

「技術士」は日本が国家資格として認定する技術者の資格です。この資格を得ることは、科学技術に精通したプロの技術者として経験と高い技術力を持ち、問題解決能力を持つハイレベルな技術者として国から認められることとなります。技術士は専門家としてさまざまな問題に立ち向かい、それを解決する業務を遂行するリーダーとして仕事ができます。

この技術士に関わる法律である「技術士法」が2000年に改正されて2001年4月から施行されました。技術者が国際的な仕事をするケースは、特別なことではなくなりつつあります。このような背景から、日本の技術士資格が国際的に他国の資格と同等であることを示す必要があります。技術士法の改正はこの国際的整合性も考慮して行われました。この改正により、技術士になるためには「技術士第一次試験」合格が必要条件となりました。この一次試験に合格すると「技術士補」として登録し、通算4年以上技術士を補佐して業務を遂行すると「技術士第二次試験」の受験資格が得られて技術士に一

歩近づくことができます。技術士第一次試験は毎年4～5月に申し込み、10月に試験があります。昨年度は、当学科では当時大学院2年生でした尾崎まり子さんが建設部門で合格しました。卒業生も何人か合格した模様です。

一方、技術者教育の国際的同等性を国家間で相互に認定する「ワシントンアコード」がアメリカ、イギリスなど6カ国で1989年に締結されました。これに対して日本では、日本技術者教育認定機構(JABEE)が1999年に設立され、技術者基礎教育プログラムの基準を満たす工学系大学(学部・学科)に対して認定する動きが始まりました。この動きはワシントンアコードへの加盟を視野に入れており、国際的な相互認定を行える技術者教育レベルの具体的目標を示しています。また、技術者の資格とも連携を取るために、この認定を受けた技術者教育プログラムを修了(修了試験に合格)すると「技術士第一次試験」が免除されます。社会交通工学科では、このJABEEの認定を受けるべく現在準備を進めています。(文責:中山晴幸)

交通景観 研究室

天野光一 教授

岸上明子 助手



●研究室の目標

究極の目標

- ・「美しい国土、住みやすい地域、都市をつくる」

研究室の活動

- ・基礎的能力の育成、資料の収集、現地の見学

- ・究極の目標にかかわる研究の実施

研究分野：景観、観光、交通の各分野の研究および

それらの分野を統合するような研究

●具体的研究テーマ

基本的には学生が興味のあること、やりたいことを提案し議論の上決定する

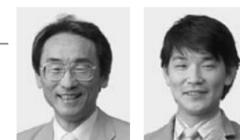
- ・景観原論
- ・景観計画・設計論
- ・交通空間(駅等の施設も含む)の計画・設計関係
- ・都市史関係：景観、交通、観光等に視座をおいた都市開発史研究
- ・観光計画関係
- ・地域づくり関係
- ・都市計画関係

昨年度から比較的異色の人材岸上明子助手(東京外国語大学卒業後、フィリピン大学都市地域計画専攻にて修士号、

デザイン 研究室

伊澤 岬 教授

江守 央 助手



昨年5月に開催した「第1回卒業設計展+研究室作品展」では、日刊建設工業新聞をはじめ、土木学会誌、建築学会誌、新建築などマスコミ各種に取り上げられ、学科のデザイン活動をアピールすることができました。本年度は第2回として「地球環境と土木デザイン」をメインテーマに企画展を中心に開催する予定で準備を進めています。特に前芝浦工科大学長/沖種郎氏とのコラボレーションで、土木と建築、環境との融合を目指した提案を行う予定です。これらの企画・運営についてはゼミ生・卒論生、さらに学科の各学年からの有志によって行われています。

また、今年度もまちづくりの実践として八千代で市民とのコラボレーションを継続して行います。

●卒業研究テーマ

設計テーマ：

1. 都市再生・自然再生
2. ユニバーサルデザイン
3. 交通空間のデザイン

論文テーマ：

1. 交通空間のユニバーサルデザイン
2. 環境の空間評価について—特に地形を中心として—
3. 観光バリアフリー—京都の境内と世界遺産を対象に—

博士号を取得)が研究室のメンバーとなったので、アジアの都市にかかわる研究にも力を入れていくつもりである。

●ゼミナールの内容

- ・専門書、論文の輪読
- ・現地調査
- ・実務にかかわる調査等
- など

●研究室に向く人、向かない人

- ・向く人

景色を見るのが好きな人、本を読むのが好きな人、議論をするのが好きな人、旅行が好きの人、雑学にたけている人、人のために何かできる人

- ・向かない人

偉くなりたい人、本といえば漫画の人、体系的でなければ気のすまない人、成績が良いのが偉いと思っている人、研究室にくると就職が有利になると思っている人、あいさつのできない人



オハラ通りの、ピスタアイストップ景



チューリッヒ、トランジットモール

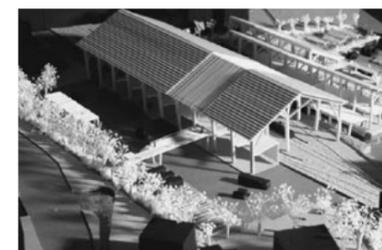
4. NPO 活動とまちづくり—バリアフリーを目指したまちづくり・まちづくりワークショップの実践—

●ゼミナール・テーマ

- 各種デザインコンペへの参加
- 都市・交通空間ウォッチング
- ワークショップの企画・運営

●卒業研究、ゼミナール着手条件

条件：景観設計・構造デザイン受講者および受講予定者



修士設計「柳川・水都再生構想」の駅提案模型



市庁舎改修ワークショップにおけるグループ作業

都市環境計画 研究室

伊東 孝 教授



都市環境計画研究室では、都市計画（まちづくり）、景観（景観工学）、交通土木史（近代化遺産）を三本柱にしなが、歴史的まちづくりの実践、土木遺産のデザイン分析とさまざまな提案などに日々取り組んでいます。

◎まちづくり

21世紀は、20世紀型のスクラップ・アンド・ビルドの開発手法に代わって、まちのストック—歴史的な蓄積—を活かした「歴史的まちづくり」（歴史的遺産を活かしたまちづくり）が求められています。

当研究室では、これらの実践の一環として、過去5年間、鞆の浦（広島県福山市）での港湾遺産調査—住民参加型の調査—やワークショップを行っています。

◎環境・景観・美

都市空間の快適性や美の追求、あるいは、歴史的に育まれてきた環境のもつ美しさなど、さまざまな景観・デザインを見つめ、また考えていきます。

◎土木史・近代化遺産

先人の築いてきた優れた土木遺産を見ることや、知られざる土木遺産（近代化遺産）の発見と評価を目指しています。当研究室では自治体などの調査はもとより、国の史跡や重要文化財の調査、海外調査も行っています。

●研究テーマ（卒業研究テーマ／その他）

- ・瀬戸内の港湾・多島海景観についての研究
- ・都市近郊鉄道（軍用・工業用等専用線含む）の研究
- ・大都市圏環状道路計画の歴史的研究
- ・近代日本の都市法・建築法の研究
- ・近代ダムと発電所の文化財的評価の研究
- ・高速道路計画についてのオーラル・ヒストリー
- ・歴史的町並みの調査・研究
- ・東南アジアの文化財保護

●ゼミナール・テーマ

- ・研究発表（PowerPoint などを使用したプレゼンテーション全般の練習）
- ・各種の現地調査（鞆など）や文献調査

●卒業研究、ゼミナール着手条件

卒業研究を景観分野で行う学生は、「景観設計」を受講しない受講予定であること。



鞆におけるワークショップ



万年橋（東京都青梅市・2003年解体）

環境工学 研究室

岩井茂雄 助教授



野水雅之 副手

環境工学研究室の人員構成は、2004年4月現在、下記のようになっています。

- ・岩井茂雄（助教授）
- ・野水雅之（副手）
- ・大学院生（1名）
- ・卒業研究生（4名）
- ・ゼミナール生（14名）

環境工学研究室では、現在各方面で発生している環境問題を背景に、それらを技術的に解決するため、学生自身でテーマを選定して調査・研究を行っています。

昨年度は、学生が主体となって6月に船橋市の環境フェア、8月にオープンキャンパス、11月には習志野祭（学部祭）といったさまざまなイベントへ積極的に参加し、自分たちの研究を一般に紹介すると同時に学外の人々との交流も広く行っています。また、ゼミナール宿泊や懇親会など勉強ばかりではなく、先生と学生、先輩と後輩、学生同士の交流も大切な時間として位置付けています。

●卒業研究テーマ

- ・アクティブノイズコントロールを利用したタイヤ・路面騒音の低減に関する研究
- ・地表面からの水分蒸発量の簡易計測

・水質浄化機能を有するブロック舗装の開発

●ゼミナール・テーマ

環境計測方法と環境データの処理方法を習得した後、既存の調査データや卒業研究のデータの処理方法と分析を通じて環境を客観的に捉える手法を学びます。

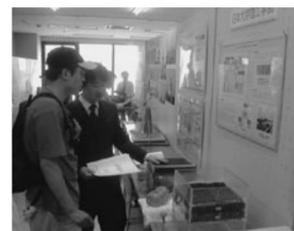
ゼミ2の後半には、卒業研究で得られたデータを基に、その処理と分析をOJTとして実施します。

●卒業研究・ゼミナール着手条件

- ・特になし。環境問題に興味を持った者であれば誰でも受け付けます。
- ・興味があるテーマを持っている場合は、相談の上卒業研究として取り上げることにしています。



ヒートアイランド現象を緩和するブロックの開発紹介（2001年11月、東京ビッグサイト）



「船橋環境フェア」での研究紹介

基礎力学 研究室

下辺 悟 助教授



わが国の国土は急峻な地形が多く、地質構造が脆弱です。しかも、台風の常襲地帯かつ地震多発地帯でもあります。それゆえ、土砂災害などの自然災害が多いのもうなずけます。こういった地盤災害の防災対策を施すのは言うに及ばず、災害の発生を簡便・迅速に、かつリアルタイムでモニタリングする検知技術の確立が切望されています。一方、近年の環境意識の高揚とともに天然素材の有効活用がクローズアップされ、生活に身近な諸分野への利用が期待されています。

本研究室では、数年前よりADR土壌水分センサーなどの各種最新センサーを用いて地盤防災（斜面崩壊、堤防の漏水検知など）の簡便なりアルタイム・モニタリング技術を探求しています。また、珪藻土という優れた天然素材の諸特性を利用した、土木・環境分野への有効活用に関する基礎的研究も、試行錯誤ながらも環境工学の視点からチャレンジしているところです。

◎研究室の場所 7号館1階7110室

◎研究室の構成員 下辺 悟助教授（交通10期生）、大学院生2名、卒研究生2名、ゼミ生3名

◎主な研究テーマ

- ・ADR土壌水分計の適用性と地盤防災の検知技術への応用
- ・珪藻土の素材特性と土木・環境分野への有効活用
- ・土の実用的分類の構築とその工学的利用

●卒業研究テーマ

- ・地盤防災の検知技術
- ・珪藻土の有効活用
- ・土の実用的分類の構築

●ゼミナール・テーマ

身近な土や他の自然素材を対象に、下記のテーマに沿って資料配付、pptなどで輪読・ディスカッションし、最新の各種センサーを駆使して室内実験などでその実証データを得るという形式でゼミを実施する予定です。

- ・天然素材への誘い
- ・怖い「地盤災害」とその防災対策
- ・各種土の基礎実験およびモデル実験
- ・建設現場・研究所見学

●卒業研究、ゼミナール着手条件

主な研究テーマが地盤材料の基礎・基本ならびに地盤防災・環境工学への応用に関するものなので、興味のある方ならどなたでも大歓迎です。

交通計画第二 研究室

高田邦道 教授



小早川 悟 助手

交通計画第二研究室では、従来から交通技術をベースにした交通計画の構築を目指して研究を進めています。具体的には、「地区交通計画」、「物流施設計画」、「都市交通計画」などの方法論を成果として挙げてきました。この中で解き切れていない問題として、「路上駐車による路外への排除」、「公共交通システム構築のためのアクセス支援」、「地区物流計画の構築」、「車抑制のための住民判断への情報提供方法論」、「自転車・バリアフリー導入による道路整備計画」、「交通事故対策への科学的アプローチ」等々が挙げられています。これらの問題を、「地球環境を考える交通技術」という視点から解いていこうと考えています。

●卒業研究テーマ

- ・都市交通管理の視点からみた駐車マネジメントに関する研究
- ・月極駐車場の有効利用に関する研究
- ・路上駐車に関する研究
- ・端末物流システム構築のための社会実験に関する研究
- ・都市と農山漁村の物流に関する研究
- ・自転車道導入に関する研究
- ・道路空間の有効利用に関する研究
- ・アイドリング・ストップ・システムに関する研究

- ・都市における二輪車の役割に関する研究
- ・住宅地における交通安全対策と住民参加に関する研究

●ゼミナール・テーマ

高田邦道教授による講義「これからの交通工学」等「都市交通計画」の輪読および発表セミナー、シンポジウム、講習会等の参加

●卒業研究、ゼミナール着手条件

交通総論、流通工学、交通現象解析Ⅰ、交通現象解析Ⅱを受講していること。



ポケット・ローディング・システムの社会実験

運輸交通計画 研究室

森 朝幸 助教授



本研究室では、「活力ある国土・地域づくりのために交通をマネージする」ことを目標として研究を行います。キーワードは「交通まちづくり」「インターモーダルリズム」。交通まちづくりとは、地域の交通施設や交通サービスを改善して、生活や産業活動をサポートし、地域を元気にしようとする概念です。交通まちづくりの“まち”は空間的広がりを含み、国土や地方、都市、街などを包含しています。インターモーダルリズムとは、道路や鉄道、バス、空港・航空、港湾・船舶といったあらゆる交通手段を有機的につなぎ、時空間的に、また料金などサービス面においてもシームレスな移動を可能にしようとする概念です。インターモーダルリズムを標榜して交通まちづくりを実践するための理念や政策、理論、技法などについて研究を進めています。

●研究テーマ

- ・インターモーダルリズム……シームレスな交通体系をつくる
- ・公共交通（鉄道、バス、LRT など）による地域活性化
- ・地域 ITS による公共交通活性化
- ・地域 ITS 推進のプロジェクトマネジメント
- ・魅力ある観光地づくりと交通
- ・国際観光流動の動向と観光交通計画（航空輸送やクルー

- ズ船による周遊観光)
- ・空港の利便性向上による交流活性化
- ・港湾機能の再構築と港湾空間の再生による“みなとまちづくり”
- ・効果的な鉄道整備事業マネジメントのあり方
- ・交通関連企業の経営戦略
- ・交通施設整備投資効果の総合評価
- ・都市政策支援のための都市評価

●ゼミナール・テーマ（予定）

- ・交通政策課題の真相を探る
- ・交通計画などに関する文献の輪読

●卒業研究、ゼミナール着手条件

原則として交通システム計画、交通需要予測を受講していること。



情報工学 研究室

中山晴幸 専任講師



情報工学研究室は、大きく分けて4つのテーマについて研究を進めています。

①ドライバーの疲労に関する研究、②歩行者の歩きやすさに関する研究、③GIS（地理情報システム）を用いた交通環境に関する研究、④ビジネス用航空機の運用に関する研究です。

ドライバーに関する研究では、運転中のドライバーの操作挙動について、心理的、身体的にさまざまな計測（アイマークカメラ、心電図、血圧、乳酸値、ホルモン分泌、運転操作、GSR、心理テストなど）を実施して運転と疲れの関係性を調べています。

歩行者に関する研究は、地下鉄駅構内における「歩きやすさ」を考慮した案内システムの構築（遺伝的アルゴリズムによる経路探索）や、歩行者空間における歩行者の歩行挙動をシミュレートするシステムの構築を行っています。また、視覚や聴覚に障害を持つ人々への歩行支援の方法についても検討しています。

GISとはGeographical Information Systemsの略で、地理情報システムと訳されていますが、このシステムを利用して末端交通の選択に関して推定できるシステムの構築や、大学周辺の環境が過去からどのように変化してきたか

を分かりやすく提示できるシステムを研究しています。また、日本全国の公共交通機関について、インフラ整備と利便性の変化についても検討しています。

ビジネス用航空機は、航空会社の定期便とは違い、企業などが仕事のために保有する、あるいはリースする航空機（飛行機やヘリコプター）を指しています。日本では未発達な交通手段ですが、海外では欧米を中心に数多く運用されています。研究では実際に運用する際のさまざまな問題点について検討しています。

●ゼミナール・テーマ

ゼミナールでは、研究に必要な情報処理手法に関する講義や演習を行います。本年度のゼミナールのテーマは、情報処理技術者試験を受験するための基本的知識に関する勉強もあわせて行います。

●卒業研究、ゼミナール着手条件

プログラミングを修得したか、現在受講中であることが望ましいと考えます。



アイカメラを用いたドライバーの視点調査

交通システム 研究室

福田 敦 助教授

長井裕美子 助手



交通システム研究室では、さまざまな交通問題へシステム工学的アプローチによって取り組むことを基本としています。問題に応じて数理計画的手法に基づくモデルやシステムの開発を行い、これらを、交通問題が深刻な開発途上国の交通状況の解析や交通政策・交通プロジェクトの評価の問題に適用し、実際に問題解決に貢献することを目標としています。

最近、開発に力を入れてきたモデルは、大型車の流入規制やロードプライシングなどの政策が交通走行状態に与える影響を分析するための利用者均衡配分法、交通システムの利用経験が利用者の行動に与える影響を表す共分散構造分析モデルなどです。また、交差点の制御やバスの運行方式などの改善策を総合的に評価するための交通流シミュレーションモデルやプローブカーシステムを活用したモニターシステムの開発などに取り組んでいます。

これらの開発したモデルの適用は、多くの場合、各国の大学の先生や学生あるいは政府関係機関などの共同研究という形で進めています。本年も、タイのチュラロンコン大学、コンケン大学、キンモンクット工科大学、フィリピンのデ・ラサール大学などの研究グループと共同で研究を進めています。卒研究生や大学院生が実際にこれらの国へ行き、現地の学生と協力して調査なども行っています。

●卒業研究テーマ

- ・プローブカーシステムを活用したバンコク都市圏における交通状況の把握方法の開発
- ・ITS技術を活用したカーシェアリングシステム管理方法の開発
- ・東南アジアにおけるオートバイの利用動向の分析
- ・シミュレーションモデルを使ったコンケン市の総合的な交通管理計画の立案
- ・バス運行改善のための高度な信号制御システムのシミュレーションによる評価
- ・日本へのミチゲーションバンキングシステム導入の可能性の研究
- ・交通分野におけるCDM導入の可能性の検討
- ・那覇市におけるトランジットモール導入社会実験の評価
- ・交通安全教室の実施実態とその効果の評価に関する研究

●ゼミナール・テーマ

小グループごとに対象都市を選び、そこでの具体的な交通問題を取り上げて、それを解決するための計画案を作る。計画案作りの過程を通じて、現況調査の方法や各種の数理計画的手法・モデルを活用した計画案の分析方法を学習する。成果については、レポートを作成し、講評会を行う。なお、平成15年度は、日本橋、那覇市、コンケン市（タイ）を対象としている。

●卒業研究、ゼミナール着手条件

交通問題の解決に関わる職業につくことを希望している者。数理統計学、オペレーションズリサーチ、交通システム計画、システム工学、交通需要予測を受講することを推奨する。

交通環境 研究室

藤井敬宏 助教授



研究室では、道路・都市・沿岸域の各種空間を対象とした社会基盤整備の評価や交通環境の改善に向けた対策方法の研究を進めています。環境の視点では、社会基盤整備を行う際の環境の保全や創造を図る方法論や計画論を検討しています。また、交通の視点では、地域の交通改善計画や交通バリアフリー化に向けた対策・評価方法の検討を行っています。

平成15年度のゼミナールは、修士課程1年が2名、卒研究生14名、3年ゼミ生15名、研究生2名の総勢23名が在籍し、毎週行っているゼミナールに加えて、研究室内の卒業研究発表会を年3回、卒業研究の各種調査、北海道へのゼミ旅行、市原市バリアフリー点検ワークショップなどへの参加など、ゼミ活動を行いました。

●卒業研究テーマ

- ①緑化計画の定量的評価に関する研究
- ②交通実態調査に基づく既成市街地の交通改善計画に関する研究
- ③歩行空間整備における交通バリアフリー評価に関する研究
- ④環境施設帯の整備評価方法に関する研究
- ⑤交通基盤整備における環境影響評価方法の取り組みに関

する研究

●ゼミナール・テーマ

①グループディスカッション

- ・ビデオ・ニュースを題材とした環境・都市・交通問題についての討論
 - a. 地域づくり・まちづくり
 - b. 世界の人口増加と環境対策
 - c. 歩道を暴走する自転車、対策とその取り組み、他
- ・OBを交えた審査会の実施（テーマ）
 - a. スペシャリストとジェネラリスト、君はどちらを目指すか
 - b. 地方都市を活性化させるための提案

②パネル作成

- ・学生たちで興味ある課題を選出し、パネル作成および発表会を実施
 - a. 自家用車から公共交通への転換
 - b. 都心ディーゼル車の排出ガス問題
 - c. 安心して利用できる歩行者空間

③現代用語検定の時事学習問題の実施（3回程度）

●卒業研究、ゼミナール着手条件

- ①交通現象解析Ⅱを受講すること
- ②基本的な統計学を理解していること

構造工学第一 研究室

星埜正明 教授



人員構成については、担当教員は星埜です。大学院生は、M2が2名、M1が1名です。卒研生は10名です。

研究対象は構造工学で、主として鋼構造であるが、鋼・コンクリート合成構造、コンクリート構造も扱っている。学部の科目でいえば、構造力学、鋼構造などが密接な関連を有している。

●卒業研究テーマ

- ・移動繰り返し荷重を受けるRCはりの疲労実験
- ・曲線箱桁橋の力学的特性
- ・合成構造橋梁の力学的特性

●ゼミナール・テーマ

受講生自らが手を動かして問題を解き、考える機会を与えるために、構造力学の演習を行う。

後期においては、習志野祭に簡単な構造物を展示する。そのためにいくつかの構造案を提出してもらい1~2案に絞って、実際に計画・設計・製作を行う。

●卒業研究、ゼミナール着手条件

特になし。



地盤工学 研究室

巻内勝彦 教授

峯岸邦夫 助手



昨年度は、大学院生9名（博士課程：社会人1名、修士課程：2年生7名（1年生1名）、卒研生（ゼミⅡ）7名、3年生（ゼミⅠ）11名）でした。

修士論文・卒業研究のテーマは、交通施設に関連する地盤構造物や交通荷重を受ける地盤を対象として扱ったものを中心に行い、特に近年注目を浴びているジオシンセティックスをを用いた補強土工法に関するもの、現場発生土の有効利用を念頭に置いた軽量化地盤材料に関する研究などを行いました。また、新規のテーマとして、交通荷重を受けるブロック舗装の下に敷設された強化ワリフの耐久性評価に関する研究と、発泡廃ガラスと関東ロームの混合地盤材料の力学特性に関する研究が加わりました。研究成果は今年度の地盤工学研究発表会、土木学会全国大会・関東支部技術発表会、ジオシンセティックスシンポジウムなどにおいて発表予定です。

今年度は、昨年度より卒研生の数が若干少なくなりましたが、昨年にも増して活発な学生が集まり、元気よくゼミ活動および卒業研究がスタートしました。なお、平成16年度の研究テーマ案は以下の通りです。

●修士論文・卒業研究テーマ

- ・飽和粘土の繰り返し圧密特性

- ・繰り返し応力下の火山灰質粘性土の力学特性
- ・土の熱伝導特性
- ・交通荷重を受ける軽量化地盤材料の力学特性
- ・超軽量地盤材料硬質ウレタンの力学特性
- ・発泡廃ガラス混合軽量地盤材料の力学特性
- ・ジオステーブル混合土の力学特性
- ・舗装用ジオシンセティックスの性能評価
- ・ジオセルの補強効果
- ・ジオドレーン材の水利特性と補強効果

●ゼミナール・テーマ

- ①交通施設の地盤工学（トランスポーターション・ジオテクノロジーとは？）
- ②地盤構造物への新素材・新工法
- ③今後の地盤環境技術
- ④性能設計法入門（これからの国際標準設計法）
- ⑤魅力あるアース・デザイン
- ⑥フィールド・トリップ（地盤の観察、現場見学など）

●卒業研究、ゼミナール着手条件

特に設けていない。

応用力学 研究室

宮森建樹 教授



●研究室の構成（平成16年度）

- ・教員：宮森建樹
- ・大学院博士課程前期学生：2名
- ・卒業研究生：12名

●研究室紹介

当研究室の研究内容は、主として土の力学的な性質の解明とその応用である。したがって、研究は実験と解析が主体となる。

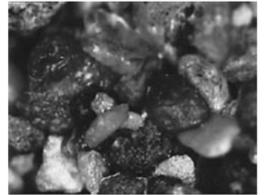
材料としては主として土を対象としている。

●研究テーマ

- ・砂質土のセメント安定処理に関する基礎的研究
- ・土の締固め機構に関する研究
- ・締固められた土の力学性状について
- ・円孔の拡大に伴う砂地盤内の応力と変形特性について
- ・砂の強度異方性



砂の構造異方性と強度に及ぼす影響について

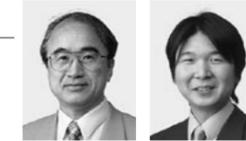


砂粒子の顕微鏡写真

構造工学第二 研究室

柳沼善明 教授

齊藤準平 助手



構造工学第二研究室は、建設材料の中で多く使用されているコンクリートについて材料面と構造面から研究しています。

材料面からは、地球環境問題が注目されていることから、水にやさしいコンクリート（エココンクリート）の開発と利用方法を研究しております。また、鉄筋コンクリート構造物などを解体して発生したコンクリート塊を骨材に再利用する再生骨材コンクリートに関する研究、さらに水に浮くような軽いコンクリートの研究も行っております。

構造面からは、新しい工法である外ケーブル工法による橋梁について、実験と解析から安全性を検討しております。また、損傷したコンクリート構造物の補修・補強について、損傷程度の診断技術や耐荷力の推定などの研究を行っております。

さらに昨年より、事故により火災を受けた場合の交通施設や構造物に与える影響に関する研究やコンクリート部材の疲労実験にも取り組みました。

ゼミ活動としては、ゼミ合宿や現場見学を行います。また、卵を工夫をこらしてガードし、屋上から落下させ卵が無事かどうかを競う「君は卵を守るか」コンテストなどを実施しております。

●卒業研究テーマ

- ・再生骨材コンクリートの有効利用に関する研究
- ・エココンクリートの特性に関する研究
- ・超軽量骨材コンクリート構造物の力学的特性に関する研究
- ・損傷・劣化した鉄筋コンクリート構造物の損傷度診断技術に関する研究
- ・外ケーブル方式プレストレストコンクリート構造物の挙動に関する研究
- ・交通施設構造物に及ぼす火災の影響

●ゼミナール・テーマ

ゼミナールでは、コンクリートに関する随筆を読み、コンクリート全般についての知識を豊かにする。

●卒業研究、ゼミナール着手条件

特になし。



平成15年度のプレストレストコンクリート橋梁現場見学の集合写真

道路交通 研究室

安井一彦 専任講師



道路交通研究室は、平成7年にできた歴史の浅い研究室です。安井一彦専任講師の下、大学院生5名、学部4年生14名、学部3年生12名、合計30名を超える大所帯の研究室です。

ゼミは各学年ごとに週1回ほどあります。3年生は交通工学に関する簡単なプログラミング練習、4年生は交通工学に関する勉強会と卒業研究のミーティングを行っています。大学院生は、修士論文を進める一方、各学会での活動や民間・官公庁からのさまざまな共同研究などを行っています。

道路交通研究室では、道路上に起こりうるあらゆる現象について研究を行ってきました。しかし、まだ解明されない現象がたくさんあります。これからも幅広い視野をもって、道路交通の効率・安全に向けて、研究に励んでいきます。研究室の詳細については、下記ホームページをご覧ください。

<http://www.trpt.cst.nihon-u.ac.jp/ROADTRA/koshiken96.html>

●主な卒業研究テーマ

- ・渋滞交差点の診断と対策案の評価に関する研究
- ・路上駐車と交通容量の関係に関する研究
- ・踏み切り信号機の高度化に関する研究

- ・速度抑制のための信号制御手法の評価に関する研究
- ・押しボタン式信号の高度化に関する研究
- ・高速道路における工事区間長と交通容量の関係に関する研究
- ・車両感知器の感知特性に関する研究
- ・歩車分離信号に関する研究

●ゼミナール・テーマ

- ・交通工学関連知識のマスター
- ・プレゼンテーションツールの学習

●卒業研究、ゼミナール着手条件

交通工学に情熱を持つ学生。卒業までに、交通流理論、交通制御、道路交通工学を取得していること。



TOPICS

CST MUSEUM の登場

わたしたちの理工学部のキャンパスに、ミュージアムができました。メインは船橋キャンパスですが、駿河台キャンパスも一翼を担っています。ミュージアムは、アーカイブズ（文書館）とオープン・エア・ミュージアム（屋外博物館）との性格を合わせもっています。

次の文章は、学部長の小嶋勝衛先生が書かれた設立趣旨です。

日本大学理工学部の前身は、大正9（1920）年に開設された日本大学高等専門学校です。昭和3（1928）年には、土木・建築・機械・電気の4学科からなる日本大学工学部が発足、これは、私立大学では2番目の工学系大学でした。今回設立した日本大学理工学部科学技術史料センター（CST MUSEUM）は、わが大学の諸先生の残された遺産を収集・継承するとともに、本学部の歴史と文化を目に見える形で継承・発展させることに大きなねらいがあります。大学はともかく、理工学部独自でこの種の施設を有するのは、日本でも先駆的なものではないかと自負しています。

CST MUSEUM では、文献・史料だけでなく、模型や実物などの「もの」も収集・展示しています。しかし、このような役割だけでなく、今後、社会が多様化・高度化するにつれて要請される多面的な要求に応えるため、卒業生や一般社会人、法人

会員の調査研究の場にも対応したいと考えています。今後、みなさまの知恵と工夫を生かして、魅力的な MUSEUM づくりをめざしたいと思います。

今年度の目標は、この MUSEUM を博物館相当施設として認定してもらうこと。認定は、MUSEUM への来館者数によって決まります。みなさん、今年はぜひ一度 MUSEUM（＝船橋キャンパス）に訪れて、カウントにご協力ください。14号館というあたらしい建物が、旧海洋建築工学科の実験室棟の跡地に建ちましたし、学び舎の研究室訪問などもいかがですか。来所ときは、守衛室にある見学者名簿に記入することもお忘れなく。

屋外展示施設としては、海幸橋のヒンジ部、フェロセメント・ヨット、ダウンウィンド型風向風速計、潮流発電装置、NU-102 風力発電装置、室内展示としては関東大震災の歴史的記録（被災構造物）、軽飛行機の Cygnet N-58 模型、また駿河台には旧1号館の正面玄関や装飾ディテールなどがあります。また文書類としては、理工学部の教育・研究および社会的にも活躍された市川清志・笠原敏郎・谷藤正三・長江啓泰・新谷洋二諸先生の蔵書・史料などがあります。これからもより一層内容の充実につとめます。

（文責：伊東 孝）

平成15年度 博士論文・修士論文・卒業研究

博士論文

界面活性剤添加によるソイルセメントパイルの品質改善に関する研究

指導：巻内勝彦 教授

水谷羊介

修士論文

道路標識の情報認識と景観に与える影響に関する基礎的研究

指導：天野光一 教授

土屋理行

旧軍用地とその周辺地域の変遷について

指導：天野光一 教授

福田将志

河川景観整備の変遷に関する研究

指導：天野光一 教授

三浦崇一郎

防護柵の景観的影響に関する基礎的研究

指導：天野光一 教授

越元 潤

柳川・水都再生構想

一水の道を観光から日常交通へ

指導：伊澤 岬 教授

田島敬悟

首都圏郊外部における環状道路の建設過程に関する研究

——一般国道16号を事例として——

指導：伊東 孝 教授

横関俊也

アクティブノイズコントロールを適用したタイヤ／路面騒音の低減に関する研究

指導：岩井茂雄 助教授

藤井健生

透水性ブロック舗装による路上雨水の浄化に関する基礎研究

指導：岩井茂雄 助教授

許 宗錫

ポケット・ローディング・システムによる道路空間の有効利用の展開プロセスに関する研究

指導：高田邦道 教授

赤松秀彦

自転車道ネットワーク構築に関する基礎的研究

指導：高田邦道 教授

和泉聡志

インテリジェント・アイドリング・ストップシステムの導入効果に関する研究

指導：高田邦道 教授

若林尚道

押しボタン式信号機の制御パラメータ自動設定手法に関する研究

指導：高田邦道 教授

高橋匠人

加速車線長による合流挙動特性に関する研究

指導：高田邦道 教授

牧野晋也

プローブカーを用いた発展途上国での交通情報収集システムに関する研究

——バンコクの旅行時間を対象として——

指導：福田 敦 助教授

石坂哲宏

リンクパフォーマンス関数の設定に影響を与える要因の分析

——東京都市圏を対象として——

指導：福田 敦 助教授

井上洋一

バンコクに立地する大型所業施設への交通影響評価制度導入の検討

指導：福田 敦 助教授

尾崎まり子

モノレールの利用経験が交通手段選択へ与える影響に関する研究

指導：福田 敦 助教授

金城一也

曲線箱桁橋の断面変形を考慮したねじり解析

指導：星正明 教授

佐野岳生

2主構橋梁における主構と床組の協同作用について

指導：星正明 教授

辛 雄范

セグメント舗装クッション層に敷設したジオテキスタイルの性能評価に関する研究

指導：巻内勝彦 教授

石井大悟

駅乗り換え時の歩行負担に関する基礎的研究

指導：巻内勝彦 教授

加藤祐介

端末交通データの精緻化による鉄道経路選択行動分析の精度向上に関する研究

指導：巻内勝彦 教授

加納英明

応力変動下の発泡ビーズ EPS 混入軽量化地盤材料の力学特性に関する研究

指導：巻内勝彦 教授

葛生智史

発泡廃ガラス混入軽量盛土材料の基本的力学特性

指導：巻内勝彦 教授

根本 亮

ジオドレーン工法のジオテキスタイル盛土工法を用いた土壌浄化に関する実験的研究

指導：巻内勝彦 教授

増田貴之

火山灰質粘性土の力学特性に及ぼす繰返し応力履歴の影響に関する研究

指導：巻内勝彦 教授

村田公宏

ソイルセメントパイル工法における攪拌翼の回転速度と混合度に関する研究

指導：巻内勝彦 教授

山下太一郎

卒業研究

【 】は共同論文指導

<p>■ 交通景観研究室 (天野光一 教授) ……………</p> <p>駅における情報に関する基礎的研究 内山一郎</p> <p>社会交通工学科のカリキュラムに関する研究 江刺家孝臣</p> <p>河川空間におけるイベントに関する研究 加納万祐子</p> <p>江戸時代における都市・交通規制の研究 —御触書集成からみる— 菊川裕介</p> <p>軍用地跡地の利用変遷に関する基礎的研究 末広那由多</p> <p>八景の特徴に関する研究 高野朱美</p> <p>温泉観光地における街歩き誘発要因に関する基礎的研究 茂木得光</p> <p>空港ターミナルの空間構成に関する研究 山田迪仁</p> <p>■ デザイン研究室 (伊澤 岬 教授) ……………</p> <p>市民参加のワークショップによる八千代市庁舎改修構想 —ユニバーサルデザイン対応型市庁舎の提案— 赤堀杏奈</p> <p>銀座アーバンプロムナード計画 —路面電車の復興と街路空間の再生— 駒林秀明</p> <p>熊野古道センター構想 —過去から未来に続くみち— 太田雅子</p> <p>隅田川運河駅構想 —水の道による原風景の構築— 稲葉 修</p> <p>佃島水都再生構想 —「人のみち」と「水のみち」の結節を考えて— 石井紀央</p> <p>■ 都市環境計画研究室 (伊東 孝 教授) ……………</p> <p>明治期における橋梁技術者の研究 —東京市土木技師、倉田吉嗣・金井彦三郎について— 高木優一</p> <p>軍用鉄道演習線に関する研究 —松戸線を事例として— 鶴岡智史</p> <p>瀬戸内海景観分析 —実踏調査と名所絵を用いて— 西塚泰道</p> <p>歴史的港を活かしたまちづくりイベントの試み —「鞆フェスタ 2003」港を舞台としての音楽祭— 田村彰洋</p> <p>■ 環境工学研究室 (岩井茂雄 助教授) ……………</p> <p>一次元蒸発量測定装置の開発について 安宅哲二</p> <p>浄化層を持つ透水性ブロック舗装の開発に関する基礎研究 真田 京</p> <p>純音を用いたタイヤ／路面騒音の打ち消しに関する研究 飯島健二</p> <p>■ 基礎力学研究室 (下辺 悟 助教授) ……………</p> <p>ADR 土壌水分計の適用性と降雨浸潤過程の検知について 大南信人、青木 進</p>	<p>珪藻土の有効利用に関する基礎的研究 竹内浩真、青木 詩</p> <p>■ 交通計画第二研究室 (高田邦道 教授) ……………</p> <p>地区特性に応じた附置義務駐車施設の整備方策に関する研究 古賀浩樹</p> <p>東京郊外鉄道駅周辺の駐車場状況と月極駐車場の有効利用につ いて 塩原康平、中尾昌史</p> <p>新宿地区における路上駐車対策「スムーズ東京 21」の効果測 定に関する研究 木村 修、藤原敦之</p> <p>石神井公園駅周辺での社会実験にみるポケット・ローディング の実態分析 船島琢哉、山本庸平</p> <p>江古田地区におけるポケット・ローディングの配置計画に関す る研究 豊島基弘、中本広志</p> <p>地区管理交通の一手段としての無料巡回バスの機能に関する研究 —大手町・丸の内・有楽町地区を対象として— 岩崎好浩、間橋佳孝</p> <p>鎌ヶ谷市における交通安全対策の面的対応について 鈴木正徳</p> <p>狭幅員道路におけるバリアフリーのための道路整備に関する研究 中島真衣、河野千絵</p> <p>狭幅員道路を考慮した自転車道ネットワーク構築に関する研究 —自転車利用者の経路選択特性の実態にもとづいて— 高浦 健</p> <p>インテリジェント・アイドリング・ストップ・システム導入に 伴う排気ガス削減効果の推定 小松宏多、佐々木 護</p> <p>北海道—関東間における牛乳輸送に関する研究 —根釧地区の生乳輸送・製品輸送を対象として— 安宅 進、山本和幸</p> <p>川口市商店街の活性化の現状と課題に関する研究 佐藤 恵</p> <p>■ 運輸交通計画研究室 (轟 朝幸 助教授) ……………</p> <p>多様な価値観を考慮した「都市の暮らしやすさ」指標の開発 市川雅章</p> <p>東葉高速鉄道線の開業遅れによる便益損失の分析 寺内洋明</p> <p>国内航空貨物の有効利用による地方空港活性化の可能性の検討 山田武史</p> <p>公共交通 ITS の導入促進に向けたバス事業者効果の特定 吉原かおり</p> <p>■ 情報工学研究室 (中山晴幸 専任講師) ……………</p> <p>わが国における午前 10 時到達圏について 渡辺 大</p> <p>GIS を用いた端末交通選択行動評価に関する研究 坂口正人、山川卓哉</p> <p>地下鉄駅構内の歩行アクセシビリティ調査 田村亮輔、吉野修平</p> <p>歩行者の歩行挙動に関する基礎的研究 真貝陽子、長山心平</p>
--	---

都内地下鉄の案内に関する基礎的研究 永尾宗大	
長時間運転とドライバー疲労の関係 湯原大宙、渡辺克行	
長距離トラックドライバーの疲労調査 蘇原健男、高田幸夫	

■ 交通システム研究室 (福田 敦 助教授) ……………

HEP による千葉東金道路に造成されたトウキョウサンショウ
ウオの代替産卵地の代償ミチゲーションとしての評価に関する
研究 藤原真也

我が国の道路周辺における自然環境保全事業に関する実態調査
—ビオトープ及びハビタットに着目して— 秦 卓典

路面状態モニタリングシステムの開発に関する基礎的研究
岡部博志

バス乗降感応信号制御導入におけるバス走行改善に関する研究
山口 翼

シミュレーションを用いた交通運用施策の検討
—沖縄県那覇市やちむん通りを対象として— 東嶋和太

利用経験による地域住民の沖縄都市モノレールに対する態度変
容に関する研究 竹内航平

首都圏における鉄道利用者の乗車券選択行動に関する分析
千脇康信【金子雄一郎】

■ 交通環境研究室 (藤井敬宏 助教授) ……………

都市の緑地評価に関する基礎的研究 秋山修平、岡田隆介

鉄道整備事業の環境影響評価に関する基礎的研究
小谷祐介、竹澤 徹

千葉県における国道の整備評価に関する研究
青木俊介、浦部淳哉

環境施設帯の副道利用実態に関する研究
竹内裕一、山本 彰

車椅子利用者の歩道整備優先順位に関する研究
佐藤力哉、南部泰志

ハンディー GPS を用いた旅行時間調査の実施方法に関する研究
金子広資、出口洋平

下田市既成市街地における交通実態分析に関する研究
倉持孝慎、中里太輔

■ 構造工学第一研究室 (星埜正明 教授) ……………

輪荷重を受ける道路橋床版の応力解析 永生洋樹、勝地康裕

■ 地盤工学研究室 (巻内勝彦 教授) ……………

飽和粘土の繰返し圧密現象に及ぼす先行圧密圧力の影響
中村康二

繰返し応力下における火山灰質粘性土の強度変形特性に及ぼ
す初期試料状態の影響 桂 洋介

発泡ビーズ混入軽量化地盤材料の変形特性に及ぼす載荷速度の
影響 安井清人

軽量地盤材料現場発泡硬質ウレタンの収縮抑制に及ぼす補強材
混入方法の影響 渡邊瑠威

ブロック舗装クッション層下の強化ジオテキスタイルの耐久性
評価 齊藤龍太郎

ジオドレーン工法における排水効果と土壌汚染浄化効果に関す
る基礎的実験 今野雄太

ソイルセメントパイルの品質に及ぼす攪拌翼回転速度の影響
工藤浩之

■ 応用力学研究室 (宮森建樹 教授) ……………

締めめられた関東ロームの力学特性について
佐藤大介、原田大輔

締めめ方法と締めめ効果に関する実験的研究
蓮見将司、福永 大

砂質土のセメント系安定処理におけるブリーディングの改善に
ついて 鶴岡 繁、中山 剛

円孔拡大による周辺地盤の締めめ方法 須永秀明、山田 潤

■ 構造工学第二研究室 (柳沼善明 教授) ……………

外ケーブル方式 PRC はりのせん断挙動に対する FEM 解析
井口 淳

人工ゼオライトを用いたモルタルの強度特性と中性化について
の研究 石橋純一

舗装用再生骨材コンクリートの疲労実験 谷口尚之

PC 構造物の耐久性に関する調査研究 地田弘樹

コンクリートの引張軟化についての研究 時田みづほ

交通施設のコンクリートに及ぼす火災の影響 古居珠紀

■ 道路交通研究室 (安井一彦 専任講師) ……………

工事区間における交通容量に関する研究
伊藤直樹、桑名憲吾【森田緯之】

首都高速道路合流部の交通容量に関する研究
池田達則、原 靖丘【森田緯之】

首都高速道路における車線利用特性に関する研究
水野雅之、宮沢 敦【森田緯之】

付加車線設置に伴う車両挙動に関する研究
井城賢一、佐藤和人【森田緯之】

横断歩道における歩行者の歩行速度と挙動に関する研究
今中裕介

交差点での歩行者の待ち時間に関する研究 松崎研人

歩車分離式信号の効果に関する研究 佐藤瑛治、佐藤勇太

踏切形状別交通現象の違いに関する研究
小貝真史、古海恵一

クリアランス制御導入効果に関する研究
五郎丸正堂、八幡善治

スキッドマーク特性に関する研究 林 一郎

渋滞交差点の診断と改善案の効果評価 金田大佑、山崎由博

街路における飽和交通流率に関する研究
堀井篤史、宮崎 剛

平成15年度 教員の研究・活動

研究業績

掲載誌・出版元	題目・作品名・書名	教員名など	発表年月
---------	-----------	-------	------

交通景観研究室 (天野光一 教授・岸上明子 助手)

■ 査読論文

Ph. D. Dissertation, School of Urban and Regional Planning, University of the Philippines [博士後期学位論文]	Urban Development and Transportation Infrastructure Development in Asian Context	Akiko KISHIUE	03年 4月
TRB 83th Annual Meeting	Development of Aesthetic Barriers (Ordinary Road Type and Expressway Type) in Japan	Koichi AMANO, Koichi ANDO, Noboru ITO & Hiroshi MATSUDA	04年 1月
構造工学論文集	景観を配慮した車両用ガードパイプの開発	天野光一 松田 博 松永博明 伊藤 登	04年 3月
Journal — The 5th Eastern Asia Society for Transportation Studies (EASTS) Conference pp. 3286-3301	The Transformation of Cebu City through the Development of its Transportation Infrastructure (1521-1990)	Akiko KISHIUE, Primitivo C. CAL, Koichi AMANO & Hussein S. LIDASAN	03年 10月

■ 口頭発表

第 25 回日本道路会議	景観型新車両用ガードパイプの開発 (その 1) —標準型安全施設の開発	天野光一 光家康夫 伊藤 登	03年 11月
第 25 回日本道路会議	景観型新車両用ガードパイプの開発 (その 2) —防護柵設置基準に準拠した性能確認実験	天野光一 石井泰志 松永博明	03年 11月
第 25 回日本道路会議	景観型新車両用ガードパイプの開発 (その 3) —小型車衝突への 3 次元シミュレーションの適用	天野光一 梶 聡 松田 博	03年 11月

デザイン研究室 (伊澤 岬 教授・江守 央 助手)

■ 査読論文

国際交通安全学会誌 Vol. 28, NO. 2, pp. 46-54	現代都市に求められる運河とそのデザイン	伊澤 岬	03年 6月
-------------------------------------	---------------------	------	--------

■ 口頭発表

第 47 回日本大学理工学部学術講演会講演論文集 (都市・交通計画部会)	交通バリアフリー法基本構想策定後の市民活動について —八千代市庁舎改修構想立案のワークショップ—	江守 央 伊澤 岬 赤堀香奈	03年 11月
第 47 回日本大学理工学部学術講演会講演論文集 (都市・交通計画部会)	柳川・水都再生構想	伊澤 岬 江守 央 田島敬悟	03年 11月

■ その他

大阪市主催	大阪北地区国際コンセプトコンペ応募 応募 960 作品にて最終 55 作品に選ばれ、原宿ハナエモビル TN プロープで 6 月 28 日から 1 ヶ月開催された作品展に出典 (作品)	伊澤 岬 江守 央 他	03年 1月
大阪市建設局主催	新戎橋デザインコンペ応募 (作品)	伊澤 岬 江守 央 他	03年 9月
三重県	三重県熊野古道センター (仮称) 基本設計公募型プロポーザル 応募 佳作入選 (作品)	伊澤 岬 江守 央 他	03年 11月
学校法人龍谷大学	学校法人龍谷大学深草学舎キャンパス修景構想公開プロポーザル (作品)	伊澤 岬 江守 央 他	03年 12月
SSKP はばたき 314 号	バリアフリーで広がる市民のわ (掲載)	江守 央	04年 3月
交通エコロジー・モビリティ財団	平成 15 年度交通バリアフリー活動報告書 (報告書)	江守 央	04年 3月

都市環境計画研究室 (伊東 孝 教授)

■ 著書

(財)えひめ地域政策研究センター	愛媛温故紀行—明治・大正・昭和の建造物	伊東 孝 (総括責任 および執筆) 他 16 名	03年 3月
------------------	---------------------	-----------------------------	--------

内子町	報告書『第 4 回日本景観学会全国大会 in 内子 景観シンポジウム報告書 「暮らしや歴史を活かす—内子の景観」』	伊東 孝 他 8 名	03年 3月
自費出版	福山市鞆の浦の歴史的港湾遺産調査	都市環境計画研究室	03年 7月

■ 口頭発表

土木史研究講演集 Vol. 23 pp. 171-176	近世の波止の構築意図に関する研究 —広島県鞆港を事例として—	畷田真一 伊東 孝 植松弘幸 浦 英一郎 堀江晋平	03年 6月
土木史研究講演集 Vol. 23 pp. 313-321	土木遺産の周辺整備計画における“土地の歴史”を重視したイメージコンセプトづくり —重要文化財「虹澗橋」を事例として—	堀川洋子 小宮山乃輔 大久保文隆 伊東 孝	03年 6月
土木計画学研究・講演集 Vol. 28 XI-4-260	“土地の歴史”を重視した土木遺産の周辺整備計画のイメージコンセプトづくり —重要文化財「虹澗橋」を事例として—	堀川洋子 伊東 孝	03年 11月
第 47 回日本大学理工学部学術講演会講演論文集 pp. 424-425	名所絵図からみる瀬戸内海景観分析	西塚泰道 川西崇行 伊東 孝	03年 11月
第 47 回日本大学理工学部学術講演会講演論文集 pp. 426-427	実踏からみる瀬戸内海景観分析	片桐隆晴 西塚泰道 川西崇行 伊東 孝	03年 11月
第 47 回日本大学理工学部学術講演会講演論文集 pp. 436-437	広島県鞆の浦の歴史的港湾遺産調査と埋立架橋計画の凍結	福田隆司 堀川洋子 浦 英一郎 小宮山乃輔 畷田真一 渡邊高章 岡本圭司 高橋寛之 川西崇行 伊東 孝	03年 11月
第 47 回日本大学理工学部学術講演会講演論文集 pp. 438-439	歴史的港湾遺産の利活用 —鞆の浦のライトアップワークショップ—	鶴岡智史 川西崇行 伊東 孝	03年 11月
第 47 回日本大学理工学部学術講演会講演論文集 pp. 440-441	歴史的港湾遺産を活かしたまちづくりイベントの試み —「鞆フェスタ 2003」港をステージとしての音楽祭—	田村彰洋 川西崇行 伊東 孝	03年 11月
第 47 回日本大学理工学部学術講演会講演論文集 pp. 442-443	軍郷津田沼から軍都松戸における軍事鉄道に関する基礎調査 —鉄道連隊・軍事施設に着目して—	鶴岡智史 川西崇行 伊東 孝	03年 11月
第 47 回日本大学理工学部学術講演会講演論文集 pp. 444-445	明治期における橋梁技術者の研究 —東京市土木技師、倉田吉嗣・金井彦三郎について—	高木優一 川西崇行 伊東 孝	03年 11月
第 47 回日本大学理工学部学術講演会講演論文集 pp. 448-449	首都圏郊外部における環状道路の形成過程 —一般国道 16 号の歴史—	横関俊也 川西崇行 伊東 孝	03年 11月
第 47 回日本大学理工学部学術講演会講演論文集 pp. 450-451	千葉市内における国道 16 号の変遷について	小野隆之 横関俊也 鶴岡智之 西塚泰道 川西崇行 伊東 孝	03年 11月
土木学会関東支部 関東支部技術研究発表会講演概要集 No. 31 IV-43	歴史的港湾遺産の利活用 —鞆の浦のライトアップワークショップ—	鶴岡智史 川西崇行 伊東 孝	04年 3月
土木学会関東支部 関東支部技術研究発表会講演概要集 No. 31 IV-44	歴史的港湾遺産の利活用 —まちづくりイベントの試み—	田村彰洋 川西崇行 伊東 孝	04年 3月
土木学会関東支部 関東支部技術研究発表会講演概要集 No. 31 IV-45	鞆の浦の歴史的港湾遺産調査と埋立架橋計画凍結	福田隆司 伊東 孝 堀川洋子 川西崇行	04年 3月
土木学会関東支部 関東支部技術研究発表会講演概要集 No. 31 IV-46	船上から見る瀬戸内海景観の分析	片桐隆晴 西塚泰道 川西崇行 伊東 孝	04年 3月
土木学会関東支部 関東支部技術研究発表会講演概要集 No. 31 IV-49	HIRSE Model を用いた近代土木遺産評価に関する一考察 —茨城県石岡第一発電所を事例として—	堀川洋子 伊東 孝	04年 3月
土木学会関東支部 関東支部技術研究発表会講演概要集 No. 31 IV-50	明治期における橋梁技術者の研究	高木優一 川西崇行 伊東 孝	04年 3月
土木学会関東支部 関東支部技術研究発表会講演概要集 No. 31 IV-51	軍用鉄道松戸線に関する初期調査 —陸軍鉄道連隊・陸軍工兵学校に着目して—	鶴岡智史 伊東 孝 川西崇行	04年 3月
土木学会関東支部 関東支部技術研究発表会講演概要集 No. 31 IV-54	郊外部環状道路の形成過程 —一般国道 16 号線のあゆみ	横関俊也 伊東 孝 川西崇行	04年 3月
土木学会関東支部 関東支部技術研究発表会講演概要集 No. 31 IV-55	千葉市内における環状道路・国道 16 号の形成過程について	小野隆之 横関俊也 川西崇行 伊東 孝	04年 3月
■ その他			
CE 建設業界 Vol. 53-4, 裏表紙中	小ヶ倉ダム—謎多きダム	伊東 孝	03年 4月
CE 建設業界 Vol. 53-5, 裏表紙中	布引五本松堰堤—はじめての大規模修復工事	伊東 孝	03年 5月
CE 建設業界 Vol. 53-6, 裏表紙中	大野ダム—環境に溶け込むダム	伊東 孝	03年 6月
CE 建設業界 Vol. 53-7, 裏表紙中	大谷貯水池堰堤—表情ゆたかなコンクリート・ブロック面	伊東 孝	03年 7月
CE 建設業界 Vol. 53-8, 裏表紙中	三島ダム—二十一世紀への継承遺産	伊東 孝	03年 8月
CE 建設業界 Vol. 53-9, 裏表紙中	糠平ダム—幻の橋とダム湖	伊東 孝	03年 9月
CE 建設業界 Vol. 53-10, 裏表紙中	幸口ダム—山間に埋もれたダム	伊東 孝	03年 10月
CE 建設業界 Vol. 53-11, 裏表紙中	肘折ダム—砂防ダムの水景美	伊東 孝	03年 11月

CE 建設業界 Vol. 53-12, 裏表紙中	山田池ダム一意匠を楽しむ	伊東 孝	03年 12月
CE 建設業界 Vol. 54-1, 裏表紙中	鏡畑ダム一穿たれた堤体	伊東 孝	04年 1月
CE 建設業界 Vol. 54-2, 裏表紙中	下久保ダム—七つの顔	伊東 孝	04年 2月
CE 建設業界 Vol. 54-3, 裏表紙中	源堰堤—信玄以来の治水事業	伊東 孝	04年 3月
埼玉新聞	関東と水の未来を考える⑤「水との共生」確実な流れに／舟運の見直しから、可動橋を上げる勇気を	伊東 孝	03年 2月
毎日新聞	企画特集「全国こども橋サミット」／日本は世界で橋をつくる技術が一番	伊東 孝	03年 4月
理工 Circular Vol. 33, No. 117, p. 11	スローな旅の勧め	伊東 孝	03年夏
Argus-eye Vol. 41, No. 477, pp. 3-15	特集「近代土木遺産とまちづくり」	伊東 孝	03年 7月
中国新聞	鞆港の歴史的価値解説、港湾5施設が現存、日大研究室3年間の調査冊子に	取材記事	03年 7月
朝日新聞	東京、隅田川① 33年の眠り	取材記事	03年 7月
越のくにづくり ほっと・ほくりく No. 31, pp. 9-12	佐渡大間港	伊東 孝	03年 10月
Library News No. 6, pp. 5-6	私の薦めるこんな本、あんな本	伊東 孝	04年 3月
http://www.mainichi.co.jp/info/dobokuisan/nihon.html	Mainichi INTERACTIVE 東京再発見	伊東 孝	03～04年

環境工学研究室 (岩井茂雄 助教授・野水雅之 副手)

■ 査読論文

Proceedings of the 32nd Congress and Exposition on Noise Control Engineering pp. 885-890	Behavior of tire tread groove relating to generation of tire/road noise at the contact patch	Takeo FUJII, Shigeo IWAI & Miki KUROKI	03年 8月
--	--	--	--------

■ 口頭発表

土木学会第58回年次学術講演会講演概要集(第5部) pp. 1361-1362	タイヤ／路面騒音の発生に関する路面プロファイルの影響について	藤井健生 岩井茂雄	03年 9月
---	--------------------------------	-----------	--------

■ その他

舗装 Vol. 39, No. 2, pp. 21-24	色の評価と舗装への適用 (No. 18 品質管理と試験) 〈解説〉	岩井茂雄	04年 2月
舗装 Vol. 39, No. 2, pp. 24-26	低騒音舗装の騒音予測方法 (No. 19 品質管理と試験) 〈解説〉	岩井茂雄	04年 2月

基礎力学研究室 (下辺 悟 助教授)

■ 口頭発表

土木学会第58回年次学術講演会講演概要集(第Ⅲ部門) pp. 343-344	ADR法による土の含水量測定とその適用性	下辺 悟	03年 9月
--	----------------------	------	--------

交通計画第二研究室 (高田邦道 教授・小早川 悟 助手)

■ 著書

(財)道路経済研究所	道路交通政策における物流マネジメントの役割に関する研究2	高田邦道 編	03年 3月
技報堂出版 都市交通計画・改訂版 pp. 212-215	トラックターミナル	新谷洋二 編 高田邦道	03年 4月
技報堂出版 都市交通計画・改訂版 pp. 215-236	駐車場	新谷洋二 編 高田邦道	03年 4月
(財)道路経済研究所	道路交通政策における物流マネジメントの役割に関する研究3	高田邦道 編	03年 10月
共立出版	環境と資源の安全保障 47の提言	高田邦道 編著 藤井敬宏 福田 敦 小早川 悟 他著	03年 12月
自由国民社 現代用語の基礎知識 2004 pp. 267-290	交通運輸問題用語の解説	高田邦道	04年 1月
日本交通政策研究会	道路空間の配分方法に関する研究	高田邦道 編 小早川 悟 西原相五 他著	04年 1月
(財)道路経済研究所 第3回研究報告書 pp. 38-52	道路交通政策における物流マネジメントの役割に関する研究	高田邦道	04年 1月
■ 査読論文			
交通工学研究発表会論文報告集 Vol. 23, pp. 297-300	路上駐車対策「スムーズ東京21」の効果分析	小早川 悟 高田邦道	03年 11月
交通工学研究発表会論文報告集 Vol. 23, pp. 273-276	道路空間の複合利用に関する研究	西原相五 高田邦道	03年 11月

交通工学研究発表会論文報告集 Vol. 23, pp. 293-298	東京郊外鉄道駅周辺の月極駐車場の有効利用に関する研究	関根 礼 高田邦道 小早川 悟	03年 11月
Proceedings of 10th World Congress on ITS	Proposed for Taxi Management at Station Plazas Using DSRC and GPS-AVM	Noriyuki TSUKADA & Kunimichi TAKADA	03年 11月
日本都市計画学会論文集 No. 38, Vol. 3, pp. 355-360	近隣商業地における路外荷さばき施設の配置に関する研究	小早川 悟 高田邦道	03年 10月
国際交通安全学会誌 Vol. 28, No. 4, pp. 56-65	都心部流入車のP&R利用転換可能性についての考察	小早川 悟 高田邦道	04年 2月
■ 口頭発表			
平成14年度国際交通安全学会研究調査報告会	自治体における市民参加型交通安全対策支援システムの研究	高田邦道 木戸伴雄 南部繁樹 葛山順一 他	03年 4月
土木学会第58回年次学術講演会講演概要集 IV-394	石神井公園駅周辺におけるポケット・ローディング・システムの利用実態分析	赤松秀彦 小早川 悟 高田邦道	03年 9月
第47回日本大学理工学部学術講演会講演論文集 pp. 406-407	交差点交通量を用いたアイドリングストップ効果の推定	若林尚道 小早川 悟 高田邦道	03年 11月
第47回日本大学理工学部学術講演会講演論文集 pp. 412-413	自転車道利用・非利用者の経路選択特性の比較	和泉聡志 小早川 悟 高田邦道	03年 11月
第47回日本大学理工学部学術講演会講演論文集 pp. 414-415	自転車走行位置の実態分析—石神井公園駅地区社会実験を通じて—	赤松秀彦 佐藤健太郎 高田邦道 小早川 悟	03年 11月
第47回日本大学理工学部学術講演会講演論文集 pp. 416-417	信号交差点における自転車横断帯の利用実態	斎藤祐紀 木戸伴雄 高田邦道	03年 11月
第28回土木計画学研究・講演集 CD-ROM	社会実験によるポケット・ローディング・システムの有効性	赤松秀彦 高田邦道	03年 11月
(社)日本道路協会 第25回日本道路会議—交通・交通安全部会 CD-ROM	バリアフリー空間確保のための道路空間複合利用	西原相五 高田邦道	03年 11月

運輸交通計画研究室 (轟 朝幸 助教授)

■ 著書

技報堂出版	東京のインフラストラクチャー—巨大都市を支える—〈第2版〉	中村英夫 家田 仁 編著 東京大学社会基盤学教室 著 (轟朝幸分担執筆)	04年 3月
-------	-------------------------------	---	--------

■ 査読論文

第2回ITSシンポジウム, ITS Japan, pp. 403-408	地域ITS推進のための方法論の構築	岡村健志 吉井稔雄 轟 朝幸 吉村浩司 熊谷靖彦	03年 12月
--------------------------------------	-------------------	--------------------------------	---------

■ 口頭発表

Proceedings of the East Asian Society on Transport Study Vol. 4, pp. 1506-1510	Recommendation of multicriteria analysis under multi actor decision condition in transport project evaluation	Saratchai ONGPRASERT & Tomoyuki TODOROKI	03年 10月
土木学会第58回年次学術講演会講演概要集4 pp. 337-338	効率的な地域ITS推進のための方法論の提案	岡村健志 吉井稔雄 轟 朝幸 吉村浩司 熊谷靖彦	03年 9月
土木学会土木計画学研究・講演集 Vol. 27, CD-No. 111	効率的な地域ITS推進のための方法論の提案と検証	岡村健志 吉井稔雄 轟 朝幸 吉村浩司 熊谷靖彦	03年 6月

情報工学研究室 (中山晴幸 専任講師)

■ 査読論文

札幌大学女子短期大学部紀要 42号 pp. 5-40	GISを用いた端末交通手段選択行動の分析簡便化に関する研究	小山 茂 中山晴幸 谷口滋一 加納英明	03年 9月
----------------------------	-------------------------------	------------------------	--------

■ 口頭発表

第47回日本大学理工学部学術講演会講演論文集 pp. 420-421	歩行者期待スペース確保モデルの応用に関する検討	中山晴幸 石川慎一郎	03年 11月
第47回日本大学理工学部学術講演会講演論文集 pp. 422-423	交通ネットワーク利用時の歩行者における歩行負担の評価に関する研究	中山晴幸 加藤祐介 大野博史	03年 11月
第47回日本大学理工学部学術講演会講演論文集 pp. 452-453	ドライバーの運転疲労と運転挙動について	中山晴幸 須藤祐介	03年 11月
第47回日本大学理工学部学術講演会講演論文集 pp. 454-455	長時間運転による疲労の推定に関する研究	中山晴幸 丸山真一郎	03年 11月

交通システム研究室 (福田 敦 助教授・長井裕美子 助手)

■ 著書

共立出版	環境と資源の安全保障 47の提言	高田邦道 横内憲久 編著 日本大学「環境と資源の安全保障」プロジェクトチーム	03年12月
------	------------------	--	--------

■ 査読論文

土木計画学研究・論文集 Vol. 20, pp. 759-770	企業行動構造を明示的に考慮した大都市圏物流施策評価モデルの構築	細谷涼子 佐野可寸志 加藤浩徳 家田 仁 福田 敦	03年 9月
----------------------------------	---------------------------------	------------------------------------	--------

国際交通安全学会誌 Vol. 28, No. 3, pp. 44-54	日本の道路整備事業におけるミチゲーションの適用可能性について	福田 敦 伊東英幸 Saruma STRASMANIUS	03年10月
-------------------------------------	--------------------------------	---------------------------------	--------

The Journal of Eastern Asia Society for Transportation Studies, Vol. 5, pp. 135-146	Two-wheeled Vehicle Ownership Trends and Issues in the Asian Region	Yumiko NAGAI, Atsushi FUKUDA, Yoshihiko HASHINO & Yuka OKADA	03年10月
---	---	---	--------

■ 口頭発表

第26回土木計画学研究発表会(春大会)	首都圏における鉄道旅客需要の運賃弾力性の計測	金子雄一郎 福田 敦 香田淳一	03年 6月
---------------------	------------------------	--------------------	--------

第26回土木計画学研究発表会(春大会)	単独交差点を対象とした小型車専用立体交差導入に関する効果分析	小田崇徳 福田 敦 室井寿明	03年 6月
---------------------	--------------------------------	-------------------	--------

第112回(2003年度)外国語教育メディア学会(LET)発表要項 関東支部研究大会 pp. 24-25	理工系英語の基本語彙の特質とその学習用単語リスト構築	葉島千歌 巻内勝彦 福田 敦	03年 6月
--	----------------------------	-------------------	--------

The Fifth International Summer Symposium JSCE pp. 301-304	The Use of Global Positioning System for Recording Travel Time of Vehicles in Bangkok	Tetsuhiro ISHIZAKA, Atsushi FUKUDA, Chawalit TIPAGORNWONG, Sorawit NARUPITI & Tuenjai FUKUDA	03年 7月
---	---	--	--------

第43回(2003年度)外国語教育メディア学会(LET)全国研究大会発表論文集 pp. 127-130	e-learning 対応の学習用理工系英語専門語彙の体系化	葉島千歌 巻内勝彦 福田 敦	03年 8月
---	--------------------------------	-------------------	--------

The Proceeding of Symposium on Environmental Issues Related to Infrastructure Development pp. 187-196	The Impacts of Transportation Policies on Air Pollution in Bangkok — Application of Network User Equilibrium Models —	Atsushi FUKUDA & Yuichiro KANEKO	03年 8月
---	---	-------------------------------------	--------

The Proceeding of Symposium on Environmental Issues Related to Infrastructure Development pp. 123-131	The Effect of Separating Private and Public Vehicular Flows	Alexis M. FILLONE, Marc A. DE LA PEÑA, Joselito P. HERNANDEZ & Atsushi FUKUDA	03年 8月
---	---	--	--------

土木学会年次学術講演会講演概要集 第4部 Vol. 58, pp. 417-418	トランジットモール導入時における周辺交通への影響に関する研究 —那覇市国際通りを事例として—	金城一也 福田 敦	03年 9月
---	---	-----------	--------

第31回環境システム研究論文発表会講演集 Vol. 31, pp. 469-472	米国のミチゲーションバンク利用実態と運営管理に関する研究	伊東英幸 福田 敦 Saruma STRAUMANIS	03年10月
---	------------------------------	--------------------------------	--------

Proceeding of 5th Eastern Asian Society of Transportation pp. 678-687	Traffic Management Measures in Makati Central Business District (CBD), Metro Manila	Alexis M. FILLONE & Atsushi FUKUDA	03年10月
---	---	---------------------------------------	--------

第47回日本大学理工学部学術講演会講演論文(都市交通計画部会) pp. 404-405	バス乗降感応式信号制御導入における交通容量改善に関する研究	山口 翼 福田 敦 室井寿明	03年11月
---	-------------------------------	-------------------	--------

第47回日本大学理工学部学術講演会講演論文(都市交通計画部会) pp. 410-411	首都圏における鉄道需要の運賃弾力性についてのマクロ分析	千脇康信 福田 敦 金子雄一郎	03年11月
---	-----------------------------	--------------------	--------

第47回日本大学理工学部学術講演会講演論文(都市交通計画部会) pp. 418-419	電動アシスト自転車共同利用システムの展開に向けた住民の参加意識調査	岡部博志 福田 敦 石坂哲宏	03年11月
---	-----------------------------------	-------------------	--------

第47回日本大学理工学部学術講演会講演論文(環境部会) pp. 282-283	我が国の道路周辺に造成されたビオトープの整備状況に関する調査	秦 卓典 福田 敦 伊東英幸	03年11月
---	--------------------------------	-------------------	--------

第47回日本大学理工学部学術講演会講演論文(環境部会) pp. 284-285	HEPによる道路周辺に造成されたハビタットの評価に関する研究 —千葉東金道路のトウキョウサンショウウオの産卵池を対象として—	藤原真也 福田 敦 伊東英幸	03年11月
---	---	-------------------	--------

第31回土木学会関東支部技術研究発表会概要集	沖縄都市モノレール開業に伴う地域住民の態度・行動分析	竹内航平 福田 敦 金城一也 関 陽水	03年 3月
------------------------	----------------------------	------------------------	--------

第31回土木学会関東支部技術研究発表会概要集	Emission Estimation and Baseline Setting for Potential CDM Project in the Transport Sector	Otkur GOJASH & Atsushi FUKUDA	03年 3月
------------------------	--	----------------------------------	--------

■ その他

IATSS Review Vol. 28, No. 2, pp. 3	論壇 再考;新たなモビリティ	福田 敦	03年 6月
------------------------------------	----------------	------	--------

(財)軽金属奨学会 第7回軽金属フォーラム「環境と近未来の自動車」	近未来のモビリティと自動車	福田 敦	03年11月
-----------------------------------	---------------	------	--------

交通環境研究室 (藤井敬宏 助教授)

■ 著書

共立出版	環境と資源の安全保障 47の提言	高田邦道 編著 藤井敬宏 福田 敦 小早川 悟 他	03年12月
------	------------------	---------------------------------	--------

科学研究費補助金基盤研究(A-1)研究成果報告書	端末物流システム構築のための社会実験的研究	高田邦道(研究代表者) 藤井敬宏 小早川 悟 他	03年 3月
--------------------------	-----------------------	--------------------------------	--------

(財)道路経済研究所	道路交通政策における物流マネジメントの役割に関する研究2	藤井敬宏 (編集および共同執筆)	03年 3月
------------	------------------------------	------------------	--------

■ 査読論文

第23回交通工学研究会論文報告集 pp. 121-124	移動制約者に配慮した歩道整備優先順位に関する研究	藤井敬宏 長野博行	03年10月
------------------------------	--------------------------	-----------	--------

■ 口頭発表

日本福祉のまちづくり学会第6回全国大会概要集 pp. 167-170	移動制約者に配慮した歩道整備評価項目の設定方法に関する基礎的研究	長野博行 藤井敬宏	03年 7月
------------------------------------	----------------------------------	-----------	--------

第47回日本大学理工学部学術講演会講演論文集 pp. 388-389	生態系を考慮した緑地ネットワーク評価に関する研究	木下明生 藤井敬宏	03年11月
------------------------------------	--------------------------	-----------	--------

第47回日本大学理工学部学術講演会講演論文集 pp. 408-409	下田市の交通実態調査 —交通実態調査に基づく車両走行特性—	松田泰将	03年11月
------------------------------------	----------------------------------	------	--------

構造工学第一研究室 (星正明 教授)

■ 査読論文

土木学会第3回道路橋床版シンポジウム講演論文集 pp. 217-222	走行振動荷重を受けるRC床版の実験耐力および動的影響	阿部 忠 澤野利章 星正明	03年 7月
-------------------------------------	----------------------------	---------------------	--------

■ 口頭発表

第58回土木学会年次学術講演会	合成2主桁橋における活荷重偏載時の荷重分配について	開山義和 星正明	03年 9月
-----------------	---------------------------	----------	--------

地盤工学研究室 (巻内勝彦 教授・峯岸邦夫 助手)

■ 著書

(社)地盤工学会	土の活用法入門(単行本) 第5章 土の有効利用	峯岸邦夫 (共著)	03年 6月
----------	-------------------------	-----------	--------

■ 査読論文

(社)地盤工学会 第48回地盤工学シンポジウム発表論文集 pp. 45-52	界面活性剤添加によるソイルセメントパイルの強度安定効果	巻内勝彦 水谷羊介	03年11月
--	-----------------------------	-----------	--------

国際ジオシンセティックス学会日本支部編ジオシンセティックス論文集 第18巻 pp. 211-214	セグメント舗装クッション層に敷設したジオテキスタイルの耐久性評価	巻内勝彦 峯岸邦夫 石井大悟	03年12月
---	----------------------------------	-------------------	--------

国際ジオシンセティックス学会日本支部編ジオシンセティックス論文集 第18巻 pp. 303-310	盛土内敷設ジオドレーンシートの排水性能評価	巻内勝彦 峯岸邦夫 増田貴之	03年12月
---	-----------------------	-------------------	--------

■ 口頭発表

(社)地盤工学会 第38回地盤工学研究発表会講演集 CD-ROM	土中水平敷設ジオテキスタイルのドレーン効果に関する模型実験	巻内勝彦 峯岸邦夫 増田貴之 塩野真康	03年 7月
----------------------------------	-------------------------------	------------------------	--------

(社)地盤工学会 第38回地盤工学研究発表会講演集 CD-ROM	界面活性剤添加によるソイルセメントパイルの強度安定効果	巻内勝彦 峯岸邦夫 水谷羊介 水上 学	03年 7月
----------------------------------	-----------------------------	------------------------	--------

(社)地盤工学会 第38回地盤工学研究発表会講演集 CD-ROM	分散剤を添加したソイルセメントの力学特性	巻内勝彦 峯岸邦夫 水谷羊介 山下太一郎	03年 7月
----------------------------------	----------------------	-------------------------	--------

(社)地盤工学会 第38回地盤工学研究発表会講演集 CD-ROM	EPS ビーズ混合軽量化土の繰返し三軸圧縮特性	峯岸邦夫 巻内勝彦 葛生智史 根本 亮 阿部直樹	03年 7月
----------------------------------	-------------------------	--------------------------------	--------

(社)地盤工学会 第38回地盤工学研究発表会講演集 CD-ROM	軽量発泡廃ガラス混入粘性土の力学特性	巻内勝彦 峯岸邦夫 久保哲也(前田工織) 根本 亮	03年 7月
----------------------------------	--------------------	---------------------------------	--------

(社)土木学会 第58回年次学術講演会講演概要集 CD-ROM	ブロック舗装クッション層下のジオテキスタイルの耐久性評価	巻内勝彦 峯岸邦夫 石井大悟	03年 9月
---------------------------------	------------------------------	-------------------	--------

(社)土木学会 第58回年次学術講演会講演概要集 CD-ROM	総合学習教材への土木工学からの支援	峯岸邦夫 依田照彦(早稲田大) 他2名	03年 9月
---------------------------------	-------------------	---------------------------	--------

(社)土木学会 第58回年次学術講演会講演概要集 CD-ROM	枝付きジオステーブル混合補強土のせん断強度特性	巻内勝彦 峯岸邦夫 星野郁夫	03年 9月
---------------------------------	-------------------------	-------------------	--------

第 47 回日本大学理工学部学術講演会講演論文集 pp. 586-587	発泡ビーズ混入軽量化地盤材料の力学特性に及ぼす荷条件の影響	巻内勝彦 葛生智史 根本 亮	峯岸邦夫 阿部直樹	03 年 11 月
第 47 回日本大学理工学部学術講演会講演論文集 pp. 618-619	水平敷設ジオテキスタイルのドレイン性能	巻内勝彦 増田貴之	峯岸邦夫 今野雄太	03 年 11 月
(社)土木学会関東支部 第 31 回関東支部技術研究発表会講演概要集 CD-ROM	繰り返し応力下における関東ロームの力学特性に及ぼす試料状態の影響	巻内勝彦 村田公宏	峯岸邦夫 桂 洋介	04 年 3 月
(社)土木学会関東支部 第 31 回関東支部技術研究発表会講演概要集 CD-ROM	発泡ビーズ混入軽量化地盤材料の変形特性に及ぼす荷条件の影響	峯岸邦夫 葛生智史	巻内勝彦 阿部直樹	04 年 3 月

応用力学研究室 (宮森建樹 教授)

■ 査読論文

土木学会論文集 No. 749, VI-61, pp. 149-163	土の粒度特性を考慮した改良土の特性と配合設計に関する研究	青山 要 脇山哲也	宮森建樹	03 年 12 月
-------------------------------------	------------------------------	--------------	------	-----------

■ 口頭発表

日本大学理工学部学術講演会講演論文集 pp. 598-599	セメント系地盤固化材のプリーディング特性の改善について	中山 剛 宮森建樹 脇山哲也	鶴岡 繁 青山 要	03 年 11 月
日本大学理工学部学術講演会講演論文集 pp. 600-601	円孔拡大による周辺地盤の締固めについて	須永秀明 宮森建樹 森 正和	山田 潤 池上成洋	03 年 11 月

構造工学第二研究室 (柳沼善明 教授・齊藤準平 助手)

■ 査読論文

(社)土木学会 コンクリート技術シリーズ 62 「PC 構造物の現状の問題点とその対策」に関するシンポジウム論文集 pp. 315-320	外ケーブル PRC はりのせん断力に対する挙動	柳沼善明	齊藤準平	03 年 6 月
(社)プレストレストコンクリート技術協会 プレストレストコンクリートの発展に関するシンポジウム論文集 pp. 537-540	外ケーブル方式 PRC はりにおけるせん断耐力算定式の適用性	柳沼善明		03 年 10 月

■ 口頭発表

第 47 回日本大学理工学部学術講演会講演論文集 pp. 572-573	外ケーブル方式 PRC はりのせん断耐力に対する FEM 解析	柳沼善明	井口 淳	03 年 11 月
第 47 回日本大学理工学部学術講演会講演論文集 pp. 550-551	人工ゼオライトを用いたモルタルの強度特性	柳沼善明	石橋純一 横山英和 (学外)	03 年 11 月
第 47 回日本大学理工学部学術講演会講演論文集 pp. 562-563	舗装用再生骨材コンクリートの力学特性	柳沼善明	谷口尚之	03 年 11 月
第 47 回日本大学理工学部学術講演会講演論文集 pp. 560-561	塩害により腐食した RC はりの曲げ性状	柳沼善明	地田弘樹	03 年 11 月
第 47 回日本大学理工学部学術講演会講演論文集 pp. 558-559	RC 部材の一軸引張挙動解析	柳沼善明	時田みづほ	03 年 11 月
第 47 回日本大学理工学部学術講演会講演論文集 pp. 564-565	交通施設のコンクリートに及ぼす火災の影響	柳沼善明	古居珠紀	03 年 11 月
第 46 回日本大学工学部学術研究報告会 pp. 133-136	外ケーブル方式 PRC はりのせん断耐力と挙動解析	柳沼善明		03 年 12 月

道路交通研究室 (安井一彦 専任講師)

■ 査読論文

(社)交通工学研究会 第 23 回交通工学研究発表会論文集 p. 45-48	踏切信号機導入による効果と安全性に関する研究	高橋匠史 安井一彦	風間 洋	03 年 10 月
(社)交通工学研究会 第 23 回交通工学研究発表会論文集 p. 49-52	スキッドマークによる交差点危険度評価に関する基礎的研究	谷口倫久	安井一彦	03 年 10 月
(社)交通工学研究会 第 23 回交通工学研究発表会論文集 p. 61-64	歩車分離式信号導入による効果と課題に関する研究	齊藤 豊	安井一彦	03 年 10 月
(社)交通工学研究会 第 23 回交通工学研究発表会論文集 p. 121-124	各種車両感知器の感知特性に関する研究	安井一彦		03 年 10 月
10th ITS World Congress	Evaluation of traffic safety facilities in Japan	Takeshi SAITO, Kazuhiko YASUI, Norio NUMATA & Mitsuo MATSUMOTO		03 年 10 月

社会的活動

■ 天野光一 教授

(社)土木学会 景観・デザイン委員会幹事長
富士市 都市景観審議会会長
富士宮市 都市景観審議会会長

■ 伊澤 岬 教授

八千代市交通バリアフリー基本構想策定協議会会長
印西市 木下貝層・活用検討委員会委員
国土交通省 道路空間のユニバーサルデザインを考える懇談会委員
国土交通省 道路空間のユニバーサルデザインを考える懇談会 WG 委員
(社)土木学会 景観・デザイン委員会委員
NPO 法人ネット房総 代表理事
八千代バリアフリーフォーラム 副代表

■ 伊東 孝 教授

文部科学省 文化庁文化審議会専門委員
東京都 文化財保護審議会専門委員
埼玉県 文化財保護審議会専門委員
富山県 文化財保護審議会専門委員
東京都 景観審議会専門委員
千代田区 景観まちづくり審議会委員
(社)土木学会 土木史研究委員会委員
(社)土木学会 土木史研究委員会オーラル・ヒストリー研究小委員会小委員長
(社)土木学会 選奨土木遺産選考委員会委員
(社)土木学会 関東支部選奨土木遺産選考委員会委員長
(社)土木学会 関東支部運営幹事会幹事
(社)土木学会 万年橋歴史調査委員会委員長
(財)リバーフロント整備センター「荒川下流誌編さん委員会」委員
(財)港湾空間高度化環境研究センター 湾口航路調査検討委員会委員
(財)国土技術研究センター 東海道道路構造解析調査委員会委員
(財)江戸東京博物館 運営委員会企画展示専門部会委員
全国町並み保存連盟 常任理事
産業考古学会 理事
(社)日本ナショナル・トラスト 評議員
みんなのチエを集めて勝岡橋をあげる会 代表
まちづくり鞆工房 (NPO) 顧問

■ 高田邦道 教授

千葉県東葛飾 鎌ヶ谷大仏交差点住民検討会委員長
白井市 都市計画審議会会長
(社)土木学会技術推進機構 技術者資格委員会・上級技術者資格小委員会委員
(社)土木学会技術推進機構 技術者資格委員会・特別上級技術者資格小委員会委員
市川市 交通対策審議会委員
市川市 交通対策審議会・総合交通計画専門部会部会長
(社)国土政策研究会 理事

(財)日本交通管理技術協会 理事
国土交通省関東運輸局 関東地方交通審議会専門委員
千代田区 駐車場整備計画検討委員会会長
(財)千葉県まちづくり公社 君津市駐車場整備計画策定調査委員会委員長
(社)環境情報科学センター 環境情報科学論文集 17 査読委員
(社)国土政策研究会 PFI 研究会委員
千葉県 大気環境保全対策専門委員会委員
(財)国際交通安全学会 顧問
(社)国政策研究会 都市・農山漁村研究会副座長
(社)日本都市計画学会 評議員
東京都環境局 交通需要マネジメント検討会議委員
(社)日本駐車場工学研究会 理事
鎌ヶ谷市 交通事故半減プロジェクト推進協議会会長
(財)道路経済研究所 物流施策の交通計画的な視点からの総合評価及び今後のあり方に関する研究会委員長
日本ロジスティクスシステム学会 評議員
日本交通政策研究会 道路空間の配分方法と住民参加に関する研究会主査

■ 星埜正明 教授

(社)土木学会 鋼構造委員会委員
(社)プレストレストコンクリート技術協会 複合橋設計施工規準改訂委員会委員

■ 巻内勝彦 教授

日本学術会議 第 5 部会社会環境工学研究連絡会地盤環境工学専門委員会委員
経済産業省 日本工業標準調査会 (JIS) 土木技術専門委員会委員
経済産業省 土木技術専門委員会企画ワーキンググループ委員
(社)土木学会 ISO 対応特別委員会幹事兼委員
(社)土木学会 細粒分の境界粒径に関する検討小委員会委員長
(社)地盤工学会 ISO 検討委員会委員長
(社)地盤工学会 ジオシンセティックス国際標準対応委員会委員
国際ジオシンセティックス学会 (IGS) 日本支部 副支部長
国際ジオシンセティックス学会 (IGS) 日本支部 2006 国際会議実行委員会副委員長
国際ジオシンセティックス学会 (IGS) 日本支部 表彰委員会委員
(社)電気設備学会 電力用ケーブルの地中埋設の施工方法 JIS 改正原案作成調査委員会委員長
(社)インターロッキング舗装技術協会 監事
(社)インターロッキング舗装技術協会 関東支部技術委員会委員長
(社)インターロッキング舗装技術協会 舗装技術委員会特別委員
(社)日本規格協会 ブロック舗装用繊維材料の性能評価方法の標準化委員会委員長
(社)日本建材産業協会 ブロック舗装用繊維材料の性能評価標準化ワーキンググループ委員長
(財)土木研究センター 土木工学国際研究交流助成制度選考委員会委員
(財)土木研究センター 多数アンカー式補強土壁工法マニュアル改訂委員会委員長

(財)土木研究センター アンカー式補強土壁工法研究委員会委員長
 (財)土木研究センター 箱型擁壁に関する耐震性技術検討委員会委員長
 (財)土木研究センター 侵食防止シート検討委員会委員長
 (財)土木研究センター 盛土補強用ジオグリッド アダム審査証明委員会委員
 (財)土木研究センター 排水性盛土補強ジオテキスタイルダイヤベース審査証明委員会委員
 (財)土木研究センター 盛土補強用ジオグリッド スパイクグリッド審査証明委員会委員
 (財)土木研究センター 袋型根固め工法用袋材 E-ユニット審査証明委員会委員
 (財)高速道路技術センター 気泡混合軽量土を用いた軽量盛土工法の付帯工に関する検討委員会委員

■ 柳沼善明 教授

(社)土木学会 コンクリート構造物の非線形解析技術研究小委員会委員
 (社)土木学会 PC 構造物の現状とその対策に関する小委員会委員
 (社)プレストレストコンクリート技術協会 PC 箱桁定着部の破壊解析委員会委員
 (社)日本コンクリート工学協会関東支部 役員

■ 岩井茂雄 助教授

(社)土木学会 表彰委員会委員
 (社)土木学会 論文賞選考委員会委員
 (社)土木学会 技術功労賞選考委員会委員長
 (社)土木学会 継続教育実施委員会幹事
 (社)土木学会 継続教育実施委員会・継続教育実施検討小委員会小委員長
 (社)土木学会 土木教育委員会・生涯教育小委員会委員
 (社)土木学会 JIS A 0101 (土木製図通則) 改正原案作成委員会委員
 (社)土木学会 役員候補選考委員会委員
 (社)土木学会 技術者資格委員会、土木学会資格・CPD 合同ワーキング委員
 (社)土木学会関東支部 商議員
 (財)防衛施設技術協会 評議員
 (社)日本石灰協会 石灰安定処理委員会委員
 (社)日本石灰協会 石灰安定処理委員会、材料分科会委員
 株式会社図書 「舗装」編集委員会委員
 千葉県八千代市 一般廃棄物最終処分場改修計画専門委員会委員

■ 下辺 悟 助教授

人事院 平成 16 年度国家公務員採用Ⅱ種試験 (土木) 試験専門委員

■ 轟 朝幸 助教授

(社)土木学会 土木計画学研究委員会バス研究小委員会委員
 (社)土木学会 教育企画委員会若者を惹きつける土木小委員会委員
 国土交通省航空局 入札監視委員会委員
 国土交通省東京航空局 入札監視委員会委員
 (社)海外運輸協力協会 (国土交通省委託) 開発途上国における航空分野安全性向上支援事業検討委員会委員
 (財)港湾空間高度化環境研究センター (国土交通省委託) 港湾・空港システム研究会委員

(株)数理計画 (環境省委託) 温室効果ガス排出量将来推計委員会に係わる運輸分科会委員
 高知県 道路懇談会委員

■ 福田 敦 助教授

(社)土木学会 技術推進機構技術者教育プログラム審査委員会幹事
 (社)土木学会 資格制度「調査・計画」分野別小委員会委員
 (社)交通工学研究会 大都市交通問題対策委員会委員
 (社)交通工学研究会 出版委員会新規出版小委員会委員
 (財)国際交通安全学会 学会誌編集委員会委員
 (財)国際交通安全学会 ISSOT アドバイザー
 計画・交通研究会 事務局次長
 アジア交通学会 国際學術委員会委員

CUPUM'03 (The 8th International Conference on Computers in Urban Planning and Urban Management) プログラム委員会幹事

文部科学省 国際的な大学の質保証に関する調査研究作業部会委員

東京湾岸地域大学間コンソーシアムによる社会人キャリア・アップ運営協議会 (TOBAC) 土木・建築産業分野分科会委員

(財)海外運輸協力協会 平成 15 年度地球環境解決のための CDM 推進事業 (国土交通省委託) 委員長

交通エコロジー・モビリティ財団 運輸部門におけるクリーン開発メカニズム (CDM) バリデーションに関する検討委員会 (国土交通省委託) 委員

(財)高速道路技術センター 高速道路の経路比較情報提供に関する検討委員会 (日本道公団委託) 委員

千葉県警察 「21 世紀の交通施策を語る会」会長

八千代市 都市計画審議会委員

那覇市 トランジットマイル社会実験推進委員会幹事会副幹事長

■ 藤井敬宏 助教授

(社)土木学会 技術者資格委員会
 船橋市 都市計画審議会委員
 市原市 市原市交通網活性化協議会委員
 市原市 市原市交通バリアフリー基本構想策定協議会委員
 (財)道路経済研究所 物流マネジメント検討委員会委員
 富士市 富士市公共交通検討委員会委員
 三重大学生物資源学部共生環境学科非常勤講師

■ 安井一彦 専任講師

千葉県警察本部 UTMS 推進協議会幹事長
 千葉県警察本部 交通事故調査委員会委員
 新潟県、新潟市 新潟都市圏 TDM 施策検討委員会副委員長
 警察庁委託 交通安全施設の効果に関する調査研究委員会委員
 警察庁委託 バリアフリー社会における横断歩行者の安全確保に関する調査研究委員会委員

(財)高速道路調査会 交通工学研究部会委員

(財)高速道路調査会 交通運用研究委員会幹事

(社)交通工学研究会 交通工学査読委員会委員

(社)交通工学研究会 交通技術に関する認証制度検討小委員会委員

(社)交通工学研究会 平面交差の計画と設計応用編編集小委員会委員

(社)交通工学研究会 雑誌交通工学編集委員会委員

(社)交通工学研究会 容量委員会委員

(社)交通工学研究会 交通工学ハンドブック改定小委員会委員

(社)交通工学研究会 交通工学研究発表会査読委員

(社)交通工学研究会 首都高速道路における交通安全対策委員会委員

(社)新交通管理システム協会 交通信号の高度化 WG 委員

■ 江守 央 助手

ST サービス・交通バリアフリー計画研究小委員会委員

TRANSED2004「第 10 回高齢者・障害者のモビリティと交通に関する国際会議」実行委員

NPO 法人ネット房総 監査

八千代バリアフリーフォーラム 事務局長

■ 小早川 悟 助手

(社)交通工学研究会 広報小委員会委員

(社)交通工学研究会 平面交差の計画と設計編集小委員会幹事

(社)交通工学研究会 都市交通管理のための現状分析調査研究委員会 (警視庁委託) 副委員長

■ 伊澤 岬 教授

講演：「障害者のライフスタイル：障害者の住—すまいから地域へ—」／社会福祉法人八千代市身体障害者福祉会 2003. 6. 22

■ 学外学術活動

■ 伊澤 岬 教授

講演：「水色のシンフォニー・松江：水辺を活かした都市のデザイン」／松江商工会議所 2003. 10. 29

講演：「秋田のアーバンデザインと仲小路」／秋田市仲小路振興会 2003. 12. 1

講演：「地球環境としての海洋空間に求める〈ワザ〉と〈タクミ〉—その過去・現在・未来—」／韓国海洋科学技術大学主催 第 5 回国際シンポジウム「海洋空間の創造的活用のための技術」 2004. 2. 13

講演：「仲小路まちづくりの未来戦略 そのハードとソフト」／秋田市仲小路振興会 2004. 3. 16

■ 伊東 孝 教授

講演：特別講演会「近代土木遺産の意義と今後の課題」／第 49 回構造工学シンポジウム 2003. 4. 3

現地見学会講師：琵琶湖疏水 30km—水辺の土木遊覧／INAX ギャラリー大阪 2003. 4. 19

シンポジウム：「見直そう！集おう！瀬戸内海」／瀬戸内ネットワーク準備会 2003. 6. 7

現地見学会講師：水の都：東京・横浜—近代土木ディテール探訪／INAX ギャラリー東京 2003. 11. 8

シンポジウム：「川とまちづくり」／水辺のシンポジウム 2003. 11. 12

講演：「隅田川橋梁の歴史と構造・デザイン (江戸・明治期)」／北区区民講座 2003. 11. 18

講演：「隅田川橋梁の歴史と構造・デザイン (大正・昭和期)」／北区区民講座 2003. 11. 25

司会：「土木計画学Ⅷ-4 土木史 (1)」／豊橋科学技術大学 2003. 11. 29

■ 長井裕美子 助手

JICA の遠隔教育 (GIS 及びリモートセンシング分野の E-ラーニング) に関する地理情報標準モジュール策定検討委員会幹事

■ 峯岸邦夫 助手

(社)土木学会 技術功労賞選考委員会幹事

(社)土木学会 土木教育委員会幹事

(社)土木学会 土木教育委員会 生涯学習小委員会幹事長

(社)地盤工学会 事業部入門書等企画委員会委員

(社)地盤工学会 「土の活用法入門」編集委員会委員兼執筆委員
 (社)地盤工学会 「地盤技術者のための衛星リモートセンシング入門」編集委員会幹事

(社)地盤工学会 調査部混合地盤材料の環境負荷軽減コスト縮減に関する研究委員会委員

(社)地盤工学会 ジオシンセティックス工学委員会委員

国際ジオシンセティックス学会日本支部 幹事

国際ジオシンセティックス学会日本支部 行事委員会委員長

国際ジオシンセティックス学会日本支部 表彰委員会委員

講演：基調講演「文化財としてみる橋」／第 5 回木の建築フォーラム「現代に生きる伝統の技術—錦帯橋掛け替え工事のすべて」 2004. 1. 24

パネルディスカッション：「木造橋の未来を語る (他 4 名)」／木の建築フォーラム 2004. 1. 24

ラジオ放送：録音風物詩「勝鬃橋を開こう」／関東地域を除く全国地方局 2004. 3. 12～14

講演：「近代土木遺産と橋」／橋の科学館 2004. 3. 27

■ 高田邦道 教授

座長：交通施設計画／土木学会第 27 回土木計画研究発表会 (春学会) 2003. 6. 6

座長：交通需要マネジメント／土木学会第 28 回土木計画研究発表会 (秋学会) 2003. 11. 29

講師：「21 世紀前半の運輸・交通の展望—道路交通工学から考える安全—」／(社)自動車技術協会 2003. 3. 26

講演：東芝物流(株)『環境の日』記念講演「CO₂ と輸送 (物流)」／東芝物流(株) 2003. 6. 5

講師：(株)アーバン・トラフィック・エンジニアリング役員研修会特別講演「これからの交通調査の方向」／(株)アーバン・トラフィック・エンジニアリング 2003. 6. 26

パネルディスカッション・パネラー：「どうなる明日の土木—建設産業の現況と展望」／2003. 6. 13

講演：「道路交通政策における物流マネジメントの役割に関する研究」／(財)道路経済研究所第 3 回研究報告会／(財)道路経済研究所 2003. 7. 25

講演：「交通安全対策支援システム」／市川市特別講演会 2003. 8. 29

講演：「交通安全対策支援システム」／白井市特別講演会 2003. 8. 29

講師：「最近の都市交通計画について」／千葉県 UTMS 会議小講演会 2003. 9. 17

トークセッション・パネラー：「神郷町から世界に向けて」

2003 神郷町まちおこしフォーラム—神はここに「水と緑」を与えた—／神郷町商工会・(社)神郷町農業公社・(社)国土政策研究会 2003. 12. 7

講演：「道路空間の配分方法と住民参加方策に関する研究」／日本交通政策研究会平成15年度プロジェクト報告会 2004. 2. 14

講演：「市民参加型交通安全対策支援システムの面的な交通安全対策への適用」／(財)国際交通安全学会研究調査内部報告会 2004. 3. 13

講演：「市民の多様性を考慮した参画型管理手法の検討」／(財)国際交通安全学会研究調査内部報告会 2004. 3. 13

講師：「非幹線道路の交通管理」／千葉県警察本部 UTMS 推進道路協議会 2004. 3. 16

講師：「都市部における駐車管理のあり方」／警視庁交通対策懇談会 2004. 3. 18

講師：「自転車利用促進のための環境整備—自転車走行空間確保のための方策—」／地域科学研究会セミナー 2004. 3. 24

■ 巻内勝彦 教授

座長：地盤工学関連 ISO・CEN 規格案の現状と課題 (ディスカッションセッション)／(社)地盤工学会 2003. 7. 2

パネラー：日本学術会議社会環境工学研究連絡委員会地盤環境工学専門員会報告／(社)地盤工学会 2003. 7. 4

■ 柳沼善明 教授

司会：第12回プレストレストコンクリートの発展に関するシンポジウム／(社)プレストレストコンクリート技術協会 2003. 10. 16

■ 岩井茂雄 助教授

講師：「透水性舗装でアメニティ向上」／全国建設研修センター 2003. 5. 15

■ 下辺 悟 助教授

座長：土木学会第58回年次学術講演会第Ⅲ部門土質安定処理・地盤改良(7)／土木学会 2003. 9. 26

■ 轟 朝幸 助教授

司会：Conference of East Asian Society on Transport Study / EAST 2003. 10

コメンテータ：第28回土木計画学研究発表会(秋大会)／土木学会 2003. 11

■ 福田 敦 助教授

司会：The 8th International Conference on Computers in Urban Planning and Urban Management 2003. 5. 7

講師：JABEEによる教育プログラム認定・審査のための「土木および土木関連分野」受審校研修会／土木学会技術推進機構 2003. 5. 16, 17

司会：The 5th International Summer Symposium / 土木学会国際委員会 2003. 7

講演：「近未来のモビリティと自動車」／第7回軽金属フォーラム 2003. 11. 20

司会：「ロード・プライシング ロンドンの状況と東京での導入課題」／計画交通研究会定例研究会 2003. 11

コメンテータ：第28回土木計画学研究発表会(秋大会)／土木学会 2003. 11. 28

コメンテータ：国際開発学会第14回全国大会(日本福祉大学)

／国際開発学会 2003. 11. 29

基調講演：「The potentiality of ITS development in Thailand」／9th International Student Seminar on Transportation Research / 国際交通安全学会(バンコク) 2003. 12. 17, 18

講演&司会：「トランジットモール導入による中心市街地の活性化—那覇国際通りトランジットマイル社会実験の経験から—」／計画交通研究会定例研究会 2004. 1

講演：「Study on Application of ITS in Asia— Trial in Bangkok」／ジェトロ・ITS-Japan・タイ自動車工業会 2004. 3. 26

■ 藤井敬宏 助教授

講演：「これからの生活交通について」／市原市議員会館 2004. 1. 29

ファシリテータ：「市原市まち歩き点検・駅歩き点検バリアフリーワークショップ」／市原市企画部まちづくり課交通政策室 会場サンプラザ市原 2004. 3. 6

■ 中山晴幸 専任講師

コメンテータ：ワゴン車のバックミラーと歩行者の危険性について／テレビ朝日 スーパーJチャンネル(ニュース番組) 2003. 8. 12

コメンテータ：道路騒音および振動について／テレビ朝日 スーパーJチャンネル(ニュース番組) 2003. 8. 19

コメンテータ：運転中の携帯電話の危険性について／テレビ朝日 スーパーJチャンネル(ニュース番組) 2004. 2. 9

■ 安井一彦 専任講師

コメンテータ：第28回土木計画学研究発表会(秋大会)／(社)土木学会 2003. 11. 27

講演：「交通渋滞の解消に向けての方策—新潟市の進むべき方向」／新潟市議会市政調査会 2003. 12. 15

出演：交通バラエティー「あかずの踏切」／フジテレビ 2003. 9. 25

■ 江守 央 助手

講演：「仲小路まちづくりの未来戦略 そのハードとソフト」／秋田市仲小路振興会 2004. 3. 16

ファシリテータ：「八千代市庁舎改修構想立案ワークショップ」／NPO ネット房総 2003. 10. 4, 11. 8, 12. 6

■ 小早川 悟 助手

講演：「道路空間の配分方法と住民参加方策に関する研究」／日本交通政策研究会平成15年度プロジェクト報告会 2004. 2. 14

副座長：交通運用・交差点／第23回交通工学研究発表会 2003. 11. 14

■ 長井裕美子 助手

講師：「教育用 GIS コース」／(財)日本測量協会 サーバーアカデミー 2003. 7. 25, 26

■ 峯岸邦夫 助手

座長：地盤材料—改良土・軽量土—／第38回地盤工学研究発表会／(社)地盤工学会 2003. 7. 4

司会：第47回日本大学理工学部学術講演会／日本大学理工学部 2003. 11. 19

座長：補強土／第31回関東支部技術研究発表会／(社)土木学会関東支部 2004. 3. 6

海外出張

教員名	出張期間／出張目的／訪問国
天野光一 教授	2003年4月5日～8日／博士論文審査／フィリピン
天野光一 教授	2003年7月10日～13日／学会出席／フィリピン
天野光一 教授	2004年1月11日～16日／学会発表／アメリカ
伊澤 岬 教授	2004年2月12日～14日／世界遺産調査／韓国・釜山、慶州を中心に
伊東 孝 教授	2003年5月3日～11日／Bike NY、Radburn、Chicagoの可動橋、Oak Townの視察／アメリカ
伊東 孝 教授	2003年8月13日～9月7日／サパティカル制度を利用してペルーとメキシコの古代都市とインフラめぐり／ペルー、メキシコ
伊東 孝 教授	2003年9月17日～10月1日／サパティカル制度を利用してエジプトのピラミッドと神殿めぐり／エジプト
伊東 孝 教授	2003年10月13日～24日／サパティカル制度を利用してモヘンジョダロとハラッパの古代都市とインフラめぐり／パキスタン
伊東 孝 教授	2004年3月15日～23日／ORC 整備事業のためのベトナム各都市の近代遺産および発掘現場の視察／ベトナム
岩井茂雄 助教授	2003年8月25日～28日／第32回国際騒音制御工学会議(InterNoise2003)にて論文発表のため／韓国
轟 朝幸 助教授	2002年10月6日～13日／「開発途上国における航空安全施設整備の支援事業」現地調査(調査団団長)／タイ
福田 敦 助教授	2003年7月28日～8月1日／国土交通省 H15年度地球環境問題解決のためのクリーン開発メカニズム(CDM) 推進事業第一回現地調査／タイ
福田 敦 助教授	2003年8月7日～11日／日本学術振興会・拠点大学方式学術交流事業「インフラ整備に関連する環境問題シンポジウム」／フィリピン
福田 敦 助教授	2003年12月13日～20日／(財)国際交通安全学会 9th International Student Seminar on Transport Research / タイ
福田 敦 助教授	2004年2月10日～15日／(財)国際交通安全学会 国際交通安全学会研究プロジェクト501に関わる調査／タイ
福田 敦 助教授	2004年3月25日～27日／ジェトロ・ITS Japan・タイ自動車工業会 ITS シンポジウム／タイ
安井一彦 専任講師	2003年8月31日～9月5日／警察庁委託：交通管理技術移転のための調査／インドネシア
岸上明子 助手	2003年7月9日～15日／フィリピン国立交通研究所(National Center for Transportation Studies) 10周年式典参加、フィリピン交通工学会(Transportation Science Society of the Philippines) / フィリピン

助成研究・委託研究

助成金名・委託元など(研究期間)	研究課題	教員名
平成15年度交通バリアフリーに対する助成 交通エコロジー・モビリティ財団(2003.7～2004.3)	八千代市交通バリアフリー法基本構想重点整備地区の移動円滑化を目指した市民参加型構想立案	伊澤 岬 教授・江守 央 助手
科学研究費補助金研究(2002.4～2006.3)	土木史研究におけるオーラルヒストリー手法の活用とその意義—高速道路に焦点をあてて—	伊東 孝 教授(研究代表者) 他6名
科学研究費補助金研究(2003.4～2004.3)	歴史的都市・村落の環境保全に関する調査研究	伊東 孝 教授 他8名
ORC 整備事業(2001.4～2006.3)	文化遺産保護・修復プロジェクト実行委員会	伊東 孝 教授 他14名
平成15年度日本大学学術研究助成金一般研究(2003.4～2004.3)	日本における水辺都市の近代土木遺産・建築遺産の再生と保存に関する調査研究	伊東 孝 教授(研究代表者) 他2名
日本信号(株) 委託研究(2003.10.1～2004.3.31)	ITSを考慮した統合輸送支援に関する研究	高田邦道 教授
新日石プラスト(株)(2003.4.1～2004.3.31)	粒状体に対する強化不織布の耐久性評価に関する研究	巻内勝彦 教授・峯岸邦夫 助手(補助)
前田工繊(株)(2003.4.1～2004.3.31)	ジオシンセティックスに関する研究	巻内勝彦 教授

平成 15 年度日本大学学術研究助成金一般研究（個人）（2003. 4～2004. 3）
 ADR 土壌水分計の適用性とその応用に関する研究 …………… 下辺 悟 助教授
 科学研究費補助金研究（2003. 4～2005. 3）
 NPO 関与による市民参加型港湾整備事業の進め方について …………… 轟 朝幸 助教授（研究代表者）
 科学研究費補助金研究（2002. 4～2004. 3）
 都市の生活の質評価システムとその適用…………… 轟 朝幸 助教授（研究分担者）

日本鉄鋼連盟（2003. 11. 24～2004. 3. 26）
 小型車専用立体交差点導入に関する研究…………… 福田 敦 助教授
 (財)国土技術研究センター（2003. 11. 24～2004. 3. 26）
 道路整備事業における新たな取り組みに関する研究…………… 福田 敦 助教授（研究代表） 他 2 名

(財)国際交通安全学会（2003. 4～2004. 3）
 開発途上国におけるオートバイの都市交通手段としての役割と限界に関する研究（Project H501）
 …………… 福田 敦 助教授（研究代表） 他 5 名

科学研究費補助金研究（2003. 4～2004. 3）
 電動車いすによる事故削減のための遠隔型ヘルス케어・ナビシステムの開発…………… 福田 敦 助教授（研究分担者）

住友電工(株)（2003. 10. 1～2004. 3. 31）
 交通管理方策に関する研究…………… 安井一彦 専任講師

平成 15 年度日本大学学術助成金奨励研究（2003. 4～2004. 3）
 外ケーブル方式を用いた PC はり定着部の力学的特性…………… 齊藤準平 助手

平成15年度 各賞受賞者

賞（受賞年月）	教員名
経済産業省 経済産業大臣賞（2003 年 10 月）	巻内勝彦 教授

平成15年度 学生の活動

主催者（受賞年月）／賞などの内容	受賞者氏名
------------------	-------

建築学会主催「2003 年度日本建築学会設計競技」（2003 年 7 月）／九州支部入選
 …………… 田島敬悟（デザイン研究室）

東京ガス(株)主催「第 17 回建築環境デザインコンペティション」（2003 年 10 月）／佳作賞
 …………… 田島敬悟（デザイン研究室）

(社)千葉県建築士会・(社)日本建築家協会千葉・千葉県建築設計管理協会・(社)千葉県建築士事務所協会「千葉県建築四会」主催
 第 16 回千葉県建築四会学生賞（2004 年 3 月）／千葉県建築四会学生賞、奨励賞 …………… 石井紀央（デザイン研究室）

(社)千葉県建築士会・(社)日本建築家協会千葉・千葉県建築設計管理協会・(社)千葉県建築士事務所協会「千葉県建築四会」主催
 第 16 回千葉県建築四会学生賞（2004 年 3 月）／千葉県建築四会学生賞、奨励賞 …………… 稲葉 修（デザイン研究室）

日本大学（2004 年 3 月）／平成 15 年度日本大学理工学部校友会桜工賞
 …………… 駒林秀明（デザイン研究室）

日本大学（2004 年 3 月）／平成 15 年度日本大学優秀賞（前掲「第 17 回建築環境デザインコンペティション」佳作によって）
 …………… 田島敬悟（デザイン研究室）

船橋市（2003 年 6 月）／船橋環境フェアに出展
 …………… 代表者 許 宗錫（環境工学研究室）

土木学会（2003 年 11 月）／第 58 回年次学術講演会優秀講演者賞「石神井公園駅周辺におけるポケット・ローディング・システム
 の利用実態分析」…………… 赤松秀彦（交通計画第二研究室）

日本大学（2004 年 3 月）／平成 15 年度日本大学理工学部長賞
 …………… 赤松秀彦（交通計画第二研究室）

日本大学（2004 年 3 月）／平成 15 年度日本大学優等賞
 …………… 豊島基弘（交通計画第二研究室）

日本大学（2004 年 3 月）／平成 15 年度日本大学理工学部校友会桜工賞
 …………… 石橋純一（構造工学第二研究室）

平成15年度 就職状況

平成 15 年度 4 年生担任 藤井敬宏

平成 15 年度理工学部交通土木工学科卒業生および大学院理工学研究科社会交通工学専攻修了者の就職状況は、前号（2004 年 4 号）で速報として紹介しましたが、今回は、3 月 25 日（卒業式）現在の最終状況を紹介します。平成 15 年度の学部卒業生は 127 名（4 名は 9 月卒業）、大学院修了者は 27 名でした。

学部卒業生で就職を希望した学生は、進学および研究生となった 25 名の学生を除く 102 名で、75 名が就職し就職率は 73.5%でした。同様に、大学院修了生の場合は、進学 1 名を除く 26 名の就職希望者に対して就職した学生は 23 名で就職率は 88.5%でした。

昨年度との就職率と比較すると、学部生は 19.4%減少したのに対して、大学院生は 9.9%増加しています。学部生の

就職率が大幅に減少した理由としては、第 1 に公務員を希望していた学生 19 名のうち合格した学生が 21%（昨年は 51%）の 4 名であり、次年度再受験する学生が増えたことが影響しています。公務員試験は、全国的に希望する学生が年々大幅に増加していますので、公務員を希望する学生は、早期の段階から学部公務員講座や学科で実施している公務員志望者交流会などに積極的に参加して受験対策をする必要性が高まっています。

また、第 2 に文部科学省の 2002 年度の大学卒業者の就職調査結果で「フリーターやアルバイトなど定職につかない割合が 25%」と報告されています。この傾向が本学科においても影響し始め、就職未定者が 11.8%を占める結果になったと思われます。

業種	就職先	学部 (名)	大学院 (名)
進学	日本大学大学院理工学研究科博士後期課程	0	1
	日本大学大学院理工学研究科博士前期課程	20	0
進学 計		20	1
公務員	国土交通省関東地方整備局	1	1
	国土交通省北陸地方整備局	1	0
	東京都庁	0	1
	警視庁交通技術職	1	0
	川崎市役所	1	0
	郡山市役所	0	1
	沼津市役所	0	1
公務員 計		4	4
建設業	青木建設工業	1	0
	旭化成ジオテック	0	1
	飯田建設工業	1	0
	オンテックス	2	0
	岡三リビック	0	1
	兼松日産農林	0	1
	ケイミックス	0	1
	第一建設工業（推薦）	1	0
	東京舗装	1	0
	東エン	1	0
皆川組	1	0	
建設業 計		8	4
コンサルタント	アーバントラフィックエンジニアリング	1	0
	開発コンサルタント	1	0
	企画開発	0	1
	田島正陽建築事務所	0	1
	中央建設コンサルタント	0	1

業種	就職先	学部 (名)	大学院 (名)
	東洋技研コンサルタント	1	0
	日本システム技術	0	1
	日比谷アメニス	0	1
	フジヤマ	1	0
	メッツ研究所	1	0
	ライテック	1	0
コンサルタント 計		6	5
物流	花王ロジスティックス	1	0
	川崎陸送	1	0
	キューソー流通システム	1	0
	大王海運	1	0
	トーヨーサービス	1	0
	南総通運	1	0
	日本通運 海運事業部	1	0
	西東京商運	1	0
	日本ライナー	1	0
	菱光ロジスティクス	1	0
マロックス	1	0	
	三菱電器ロジスティックス	2	0
	リコーロジスティクス	2	0
物流 計		15	0
情報・ソフト	ITS	0	1
	アイ・エス・ビー	1	0
	イー・アクセス	1	0
	ASL	1	0
	エール情報システムズ	1	0
	エム・アール・アイシステムズ	1	0
	JAST 日本システム技術	1	0

業種	就職先	学部 (名)	大学院 (名)
	ソフトウェア興業	1	0
	TMSS	1	0
	docomo システムズ	0	1
	日本エンジニアリングシステム	1	0
	日本コムシス	1	0
	日本システムデベロップメント	0	1
	日本トラフィックコンピュータセンター	1	0
	フォーラムエンジニアリング	1	0
	ベーシック	1	0
	ユニティー	1	0
情報・ソフト 計		14	3
不動産	あさひ不動産	0	1
	FJ ネクスト	1	0
	創建ホームズ	0	1
	豊田	1	0
	東急リパブル	1	0
	扶桑レクセル	1	0
	ミサワホーム西関東	1	0
	明和地所	1	0
メイワ	1	0	
不動産 計		7	2
鉄道	東日本旅客鉄道	1	1
	東日本旅客鉄道 新潟支社	1	0
	新幹線メンテナンス東海	1	0
	帝都高速度交通営団	1	0
	東京地下鉄	1	0
鉄道 計		5	1
製造	IHI エスキューブ	1	0
	共和コンクリート工業	0	1
	日本抵抗器販売	0	1
	富士機材	1	0
製造 計		2	2
学校	駒沢学園女子中・高等学校	1	0
	都立大学研究生	1	0
	日本大学理工学部研究生	1	0
	文際アートカレッジおよび他専門学校(写真等)	3	0
学校 計		6	0
その他	品川	0	1
	JA まつど	1	0
	JR 東日本フードビジネス	1	0
	太貴	1	0
	中央損保鑑定事務所	1	0
	日本パーキング	1	0
	八戸信用金庫	1	0
	ファイザー	1	0
	ホリプロダクション	1	0
	松本三菱自動車販売	0	1
	ムトウ	1	0
	山口農協直販	1	0
	ヤマハオートセンター	1	0

業種	就職先	学部 (名)	大学院 (名)
	有人社	1	0
	レコードショップ	1	0
その他 計		13	2
来年度公務員受験	来年度公務員を受験する予定のもの	15	0
未定		12	3
総計		127	27

社会交通工学科の公務員志望者交流会について

平成 15 年度日本大学全体の国家公務員 I 種一次合格者は 10 名で、その大部分は理工学部の学生および出身者で占められていました。その 10 名中 2 名は社会交通工学科の学生で、昨年度、一昨年度と連続してわが学科から合格者が出ていることとなります。

国家公務員 I 種を含めた公務員の合格を勝ち取るためには基礎と応用双方の学力と試験への習熟が必要であると言われていきます。また、さまざまな情報交換も必要です。社会交通工学科では、昨年 12 月に公務員志望者を対象に、下図のような情報交換組織「公務員志望者交流会」を立ち上げました。学生に対して参加を呼びかけたところ、3 年生を中心に約 50 名が参加を希望してきました。

現状では、江守助手・野水副手を中心とした支援グループからメーリングリストを通じて情報を流すとともに、学科 WEB サーバに専用の WEB サイトを設けて参加者に ID を発行し、このサイトにアクセスして掲示板を使用して情報交換ができるようになっています。

この場を借りて、学科出身の公務員諸先輩方にも連携をお願いし、支援グループと連携をとりながらこの組織に参加してご自身の体験や公務員の仕事、試験への心得などについて情報をお寄せ頂きたいと思っております。

また、学科学生諸君の参加もさらに受け付けています。コンピュータとインターネット環境がなくても、携帯電話でホームページにアクセスできたり、メールを送受できれば情報交換や情報を受け取ることは可能です。

下記支援グループへメールを頂ければ、サイトへの ID およびパスワードが発行されますので、是非ご参加ください。

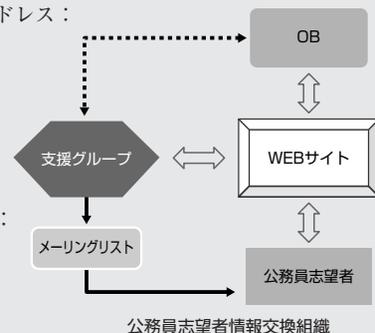
(文責：中山晴幸)

支援グループメールアドレス：

emori@
trpt.cst.nihon-u.ac.jp
nomizu@
trpt.cst.nihon-u.ac.jp

管理者メールアドレス：

nakayama@
trpt.cst.nihon-u.ac.jp



公務員志望者情報交換組織

7214 号室

教室事務室

越川静子

〒 274-8501 千葉県船橋市習志野台 7-24-1
Tel. 047-469-5239 Fax. 047-469-2581

<http://www.trpt.cst.nihon-u.ac.jp>

